

Kodai

Jin!

1 ●ごあいさつ

同窓会会長 秋元 俊通
学長 宮城 光信氏
工学部 学部長 渡邊 浩文氏
ライフデザイン学部 学部長 石川 善美氏
知能エレクトロニクス学科 学科長 丸山 次人氏
情報通信工学科 学科長 村岡 一信氏
建築学科 学科長 石井 敏氏
都市マネジメント学科 学科長 小出 英夫氏
環境エネルギー学科 学科長 宮本 裕一氏
クリエイティブデザイン学科 学科長 両角 清隆氏
安全安心生活デザイン学科 学科長 小山 祐司氏
経営コミュニケーション学科 学科長 宮曾根美香氏

8 ●恩師からの便り

元教授 谷津 憲司氏
元教授 沼野 夏生氏
元教授 稲村 肇氏

11 ●同窓会30年の歩み

15 ●特集 設立30周年記念座談会

22 ●支部活動等報告

24 ●活躍する工大人

株式会社アイネス 松本 学氏
テックスエンジニアリング株式会社
阿部 義規氏
株式会社山下設計 千葉 満輝氏
パシフィックコンサルタンツ株式会社
齋藤 武範氏
株式会社シグマトロン
三宅 良宜氏
フリーランスグラフィックデザイナー
上代 暁氏
株式会社北洲 岡崎 真由氏
株式会社仙台三越 工藤 翼氏

28 ●インフォメーション

29 ●トピックス

30 ●同窓会総会・懇親会のご案内

挨拶文



東北工業大学同窓会 会長

秋元 俊通 (あきもと としみち)

1975年 土木工学科卒業 (5回生・菊地研究室)
現在 株式会社 秋元技術コンサルタンツ
代表取締役
土地家屋調査士 秋元俊通事務所
所長

東日本大震災から5年目に入りました。いまだ仮設住宅で生活することを余儀なくされている方も大勢いらっしゃいますので、復興道半ばといわざるを得ませんが、この復旧復興に際しましては大学の社会貢献はもとより、多くの同窓生も献身的な活躍をなさっておられることに心より敬意を表します。研究よりも実践を旨としてきた我々工大人の本領発揮といったところだと誇りに思っております。

さて、大学御当局のご指導並びに会員の皆様のご理解・ご協力のお蔭をもちまして、本年7月に当同窓会設立30周年を迎えることができましたことに、同窓会役員一同を代表して心より感謝申し上げます。この間、新潟県、青森県並びに北海道に支部を結成し、岩手県、秋田県および福島県で毎年「同窓生の集い」を開催してまいりました。今年は11月に初めての「関東地区同窓生の集い」を開催する予定であります。このように構築してまいりましたネットワークを、今後も更に拡大し充実させて参る所存でございますので、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

就職率が全国でも有数との評価をいただいております我等が東北工業大学ですが、少子化によって入学者の減少が懸念されております。我々同窓会々員は、せめてもの恩返しに自らの業務や社会活動を通して大学の盛名を轟かせ、ひいては同窓会の次の10年、更には50年紀に思いを馳せたいと存じます。

創立50周年を迎えた東北工業大学の一層の発展と会員皆様の益々のご活躍を祈念いたし、設立30周年の挨拶とさせていただきます。



第30回定時総会



同窓会懇親会



バス停ルーフを同窓会で寄贈

東北工業大学の 今後の 50 年に向けて

1964年に創立された東北工業大学は、今、次の50年に向かって歩みはじめた。「わが国、特に東北地方の産業界で指導的な役割を担う高度の技術者を養成する」という建学の精神は、3万3千人を超える同窓生を世に輩出した本学に、着実に生きている。50年という歳月は、東北の街並み、人々の生活、人々の考え方も変えている。しかし、社会状況を概観すれば、意外にも50年前と類似な姿が垣間見える。東京オリンピック、新幹線に代表される国家事業を成功させるために、東北の地から多くの人々が故郷を離れた。地方創生が叫ばれている現在、それは既に50年前、錦の御旗を掲げ発展した日本の姿と同様ではないのか。日本を真に住みやすく、豊かにするためには、東日本大震災で大きな痛手を負った東北の地に住みやすく、豊かにする必要があると痛感する。

建学の精神は正に私たち工大人に課せられた永遠の使命であり、また、そこに本学の教職員の喜びがあり、同窓生の誇りがある。本学のこれまでの実績と将来に対する計画が評価され、次の50年のスタートの時に、文科省から数少ない大学の一つとして、地（知）の拠点（COC, Center Of Community）に認定されたのはその証である。

今こそ東北工業大学はしっかりと地に足を据え、同窓会と一体となり、建学の精神に沿って強い歩みをなすべき時である。そのことが東北を強くし、東



東北工業大学 学長
宮城 光信（みやぎ みつのぶ）氏
1942年 北海道生まれ
1965年 東北大学工学部通信工学科卒業
同大学院修了後、東北大学電気通信研究所助手、助教授、工学部教授、同工学研究科長・工学部長、仙台高等学校長などを経て2013年から現職。

北で暮す人々の生活を豊かにしていくものと私は信じている。それが今後の50年に向けた東北工業大学の姿でもある。



東北工業大学創立 50 周年記念祝賀会



正門の掲示板に採択（地（知）の拠点：大学COC事業）結果をお知らせしています

ごあいさつ

工学部の近況報告

工学部 学部長

渡邊 浩文 (わたなべ ひろのり) 氏

平成10年10月 工学部建築学科 講師

平成14年 4月 助教授

平成20年 4月 教授

平成24年 4月～平成26年 3月 建築学科長

平成26年 4月 工学部長、工学科学科長 (現在に至る)



昨年度本学は創立 50 周年を迎え、同窓会諸兄から様々に祝意を頂戴いたしました。まず冒頭に、心からの感謝を申し上げます。これまでの半世紀に堅実に築き上げた社会からの信頼に、これからも応えるべく、教育・研究・社会貢献に努めていく所存です。

東日本大震災から 4 年余が経過したものの、復興の道はまだまだ途上であります。わが国の将来に関わる様々な課題も顕在化しております。本学は、本年 3 月に開催された第 3 回国連防災世界会議のパブリックフォーラムとして、「復興のジレンマ」と題するシンポジウムとパネル展を開催し、議論の場を提供いたしました。

また、地方創生が求められております。本学は文部科学省から「地(知)の拠点事業：COC」に採択され、その一翼を担っておりますが、今年度は近隣他大学とともに「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業：COC+」に応募し、宮城県をはじめとする東北地方の創生に取り組む予定です。実社会との協働を更に強める取り組みとなります。

先日、岩崎俊一理事長と懇談した際に「『Quality of Society』を向上させよう」と意気投合しました。何かの拍子に「QOL: Quality of Life という言葉は好きでない」と申し上げた際に、岩崎理事長からご恵みいただいた言葉です。新たな半世紀に踏み出した本学にとって、そしてわが国、特に東北地方を支える「工大人」にとって、極めて重要な考え方であるのご理解いただけたと思います。是非、共有の輪を拡げたいと考えております。

皆様とともに、様々に取り組みたいと存じます。よろしくお願い致します。



八木山キャンパス



ごあいさつ

ライフデザイン学部の近況報告

ライフデザイン学部 学部長

石川 善美 (いしかわ よしみ) 氏

1990年 東北工業大学助教授

(工学部工業意匠学科)

1994年 同教授

2008年 同ライフデザイン学部安全安心生活デザイン学科に配置換え

2012年 同副学長、ライフデザイン学部長



ライフデザイン学部(LD学部)は、長町キャンパス(旧二ツ沢キャンパス)を拠点とする新学部として 2008 年に開設され、今年で 8 年目を迎えました。この間、2012 年 3 月の第 1 回生から 2015 年 3 月の第 4 回生まで、計 790 名の卒業生を輩出し、現在、卒業生達は地域社会のさまざまな分野、さまざまな方面で活躍しております。

学部の構成は、クリエイティブデザイン学科(CD学科)、安全安心生活デザイン学科(SD学科)、経営コミュニケーション学科(MC学科)の 3 学科であり、文理融合を謳(うた)っておりますが、CD学科は、古い同窓生の方にはなつかしい工業意匠学科(後にデザイン工学科と改称)の後継学科であります。SD学科は、工業意匠学科の空間系に建築学科と共通教育センターの心身系の教員が中心となって再編された学科です。MC学科だけは、本学としては初めての文系学科で、まったく新しく構想された学科となっています。

現在、私学を取り巻く状況は、皆さまご承知の通り厳しさを増しており、とくに、あの大震災後は、LD学部も入学者の減少で大変な苦戦を強いられましたが、徐々に回復し、今年度の入学者は学部として定員を上回ることができました。

教職員についても、設立時のメンバーから現在は半数近くが入れ替わり、世代交代が進んで若い先生が多くなっています。学生は、女子学生の比率が 25～30%と工学部に比して高く、キャンパスは華やかで楽しそうなのが特徴です。そのキャンパスも、2014 年 3 月に新 4 号館が竣工。バスプールもキャンパス内にできるなど整備が進み、雰囲気は一変しましたので、是非、多くの同窓生の方々に見ていただきたいと思っております。最後になりますが、同窓生の皆さまのますますのご健勝を心より祈念申し上げ、近況報告かたがたご挨拶いたします。



長町キャンパス



ごあいさつ

未来を見据え、 魅力ある学科を目指して

知能エレクトロニクス学科 学科長

丸山 次人 (まるやま つとむ) 氏

1952年 長野県生まれ

1980年3月 東北大学大学院博士課程修了、工学博士

1980年4月 株式会社通研研究所に入社、NTT向け配線盤用ピン挿抜ロボットの
実用化、通産省プロジェクト「食事搬送自動移動ロボット」の開発、垂直磁気記録
方式の装置化技術の実用化研究など

2013年4月 東北工業大学教授 現在に至る。体の不自由な方の生活支援ロ
ボット、およびヒトの知覚運動制御技術の研究に従事。



今日身の周りの製品は、マイコンが組込まれ知能
化され、安全で快適な生活を提供しています。本学
科では、今日の知能化情報社会を支えるための電気・
電子工学とコンピュータについて教育・研究を行っ
ております。お陰様で4年連続就職率ほぼ100%を
達成しております。

さて、18歳人口は2018年頃から減り始め、大学
進学者も減っていくことが予想されております。こ
の状況を踏まえ、学生にとって魅力ある学科を目指
し実施・検討中の新しい試みをご紹介します。

まず数年前より学生の資格取得に力を入れており
ます。ハードウェアに興味のある学生には電気工事
士の、またソフトウェアに興味のある学生には基本
情報技術者の資格取得を推奨し、特別講座を開講し
ております(写真左)。昨年度、前者の第一種では
8名(女子1名)全員の合格を、また後者では3名(女
子1名)の合格を出すことができました。資格を
持つ学生は第一志望に順調に内々定しております。

つぎに今年度より「知能エレクトロニクスラボ」という研
究者早期育成プログラムを立ち上げました。1年生～
3年生が興味のあるテーマについて、教員の指導の
下で研究を行える制度です。文科省主催サイエンス・
インカレへの出場を目標に、早い時期から研究に触
れさせるとともに、大学院進学者を増やすことが狙
いです。現在4チーム8名が頑張っています。

課題解決能力育成のために卒業研修を行っていま
すが、さらに2、3年生向けの課題解決型アクティ
ブラーニング科目「創造開発」を検討しております。
課題に対し自ら企画・設計・製作・発表を行い、優
秀者は外部のコンテスト(写真右)に挑戦します。

上記の新しい試みが、近い将来、実を結ぶことを願
い教員一同日々学生の指導育成に努めております。



電気工事士特別講座



基本情報技術者夏期合宿



国際ナノ・マイクロアプリケーション
コンテスト世界大会(入賞)

ごあいさつ

情報通信工学科 の近況

情報通信工学科 学科長

村岡 一信 (むらおか かずのぶ) 氏

昭和51年3月 東北工業大学 電子工学科 卒業

昭和51年4月 東北工業大学 研究生

昭和52年4月 仙台電子専門学校 教員

平成元年 4月 岩手県立盛岡短期大学 講師

平成11年3月 岩手大学大学院工学研究科修了 博士(工学)

平成11年6月 岩手大学工学部 助教授

平成14年4月 東北工業大学 教授 現在に至る



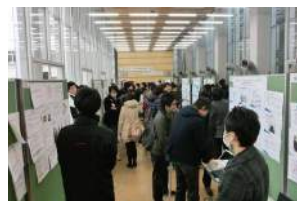
本学科は大学創立時に通信工学科として発足し、
平成16年4月に情報通信工学科に改称して現在に
至っています。今年の3月には108名が卒業し、卒
業生の総計は6225名になりました。その多くが東
北地方を中心に、情報通信分野の技術者として活躍
しています。現在の在籍者数は465名で、教授8名、
准教授6名、助手2名、計16名の専任教員で教育
研究に取り組んでおります。

本学科の特徴として、充実した教育実験設備が挙
げられます。特にITシステムラボラトリーは、光
通信やコンピュータネットワークの分野で実際に使
用されている装置で構築した本格的な実験施設で、
光通信ネットワークやコンピュータセキュリティな
どについて、実践的な力を身に付けさせることがで
きます。

本学科の就職率は、就職指導対策を強化した効果
が現れ、最近の3年間ではほぼ100パーセントと
なっています。就職以外の進路としては大学院進学
が挙げられますが、最近では本学の大学院の他、東
北大学大学院など、他大学の大学院に合格する学生
も出ております。

教育カリキュラムに関しましては、3年ほど前か
ら情報通信工学実験の改善に取り組み、実験書の大
幅改訂や実験装置の近代化を行いました。平成29
年度にはカリキュラムの全面改訂が予定されてお
り、初年度教育をより充実するべく計画しておりま
す。

今後も教育内容の充実を図り、高校生にとって魅
力的な、そして社会から求められる学科であり続け
る努力を重ねて行く所存です。これまで通り皆様
のご支援を、よろしくお願い申し上げます。



ごあいさつ

2016年の建築学科 50周年に向けて

建築学科 学科長

石井 敏 (いしい さとし) 氏

2001年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 博士後期課程修了
2001年 東北工業大学工学部 建築学科 講師
2004年 東北工業大学助教授
2010年 東北工業大学教授
2014年 東北工業大学建築学科長 (現在に至る)



ごあいさつ

学科の未来

都市マネジメント学科 学科長

小出 英夫 (こいで ひでお) 氏

1990年 東北工業大学工学部 土木工学科 講師
1992年 東北工業大学助教授
2005年 東北工業大学教授
2006年 東北工業大学入試部長
2012年 東北工業大学都市マネジメント学科長 (現在に至る)



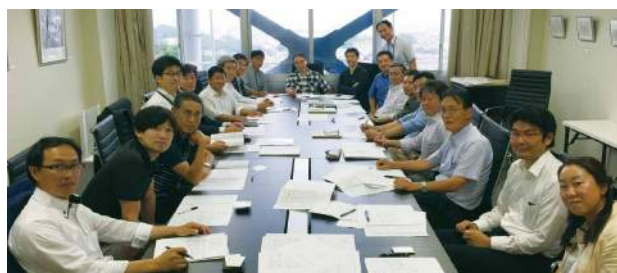
このたびは同窓会 30 周年、誠におめでとうございます。

さて、建築学科は来年、学科創設 50 周年を迎えます。創設以来、学科名称等の変更もなく、ぶれることなく一貫して建築学科として歩んできたところにその強さがあります。本学最多の 7,500 名を超える卒業生を輩出し、仙台・宮城、東北、そして全国各地での、また、さまざまな分野での一人ひとりの活躍と活動の実績が、工大建築学科の社会からの高い信頼と評価を確立させています。50 年の歴史とそこで培われたネットワークはまさに財産です。

学科では、昨年度をもって学科 1 回生の谷津憲司教授が退職されました。新しい時代に突入したと感じるとともに、新たな時代に向けて、学科と卒業生、また卒業生同士のネットワークの再構築が重要だと考えています。

その意味からも、この 50 周年という機会は、学科同窓会 (尚建会) を再構築し、強化するには絶好のタイミングととらえ、先般、学科と在仙の同窓生とで 50 周年記念実行委員会 (実行委員長・野津弘・1976 年卒) を組織し、始動しました。そこでのメイン行事として来年 2016 年 10 月 8 日 (土)、仙台にて卒業生が気軽に集い・交流し、そして学科の 50 周年を祝うことができるような機会を企画しました。懐かしい恩師や友人との再会の場になればと考えています。ご一緒に工大建築学科 50 周年を祝い、盛り上げ、そして地域・社会に対して東北に工大建築学科あり、という姿を示していこうではありませんか。

詳細は今後、建築学科ホームページ、Facebook でも情報発信して参りますのでご覧ください。メーリングリスト作成のためのメールアドレス登録もお願いしています。よろしくお願いいたします。最後になりましたが、皆さまの益々のご活躍を心から期待しています。来年、仙台でお会いしましょう！



実行委員会の様子 (2015/07/09)

土木工学科・建設システム工学科・都市マネジメント学科卒業生の皆様、本学科は 2 回の学科名称変更を経て、今年が 49 年目、次年度 50 年目 (2016 年度入学生は 50 回生) を迎えます。

学科のあらたな 50 年をスタートさせるにあたり、「学科の明るい未来」について考えてみました。それは、卒業生の皆様や我々教員が土木分野で活躍し、豊かな生活を送り、社会的にも高評価を受け、その結果、多くの人達が「あの学科に進学させたい・したい」と思うようになることで実現するものです。

我々教員や大学は学生が卒業後に活躍できるよう、教育面はもちろん様々な面で支援をしています。本学科は 2006 年度に JABEE 認定 (国家資格「技術士補」相当) を受け、直近の 2014 年度の継続審査により 2019 年度卒業生までの認定が確定しています。そろそろ、JABEE 認定卒である 2006 年度以降の建設システム工学科卒業生の中からも「技術士」が誕生することを期待しています。本人や勤務先企業等はもちろんですが、皆様の想像以上に、「学科の明るい未来」に直結するできごととなります。合格時には是非、大学にもご連絡願います。我々教員も、教育・研究活動等に関して、学科卒業生 3 名を含む学科外部評価委員からの厳しいご意見・アドバイスを真摯に耳を傾け日々頑張っております。卒業生の皆様方におかれましても、何卒、本学科発展のためにご協力いただければ幸いです。

ところで震災以降、多くの卒業生の方々から学科名を「土木に戻したら？」の声を頂きます。しかしその一方で、「都市マネジメント」の名前に魅力を感じて入学する学生が多いことも事実です。学科の明るい未来につながる一つの選択を、今、迫られているところです。



オープンキャンパスで活躍する未来の土木技術者 (在学生) 達

ごあいさつ

健全で持続可能な 社会の実現を

環境エネルギー学科 学科長

宮本 裕一 (みやもと ゆういち) 氏

神戸大学大学院工学研究科修士課程修了 (1975.3)

川崎重工業株式会社にて熱プラントの制御、大容量二次電池の開発等を担当
東北工業大学工学部環境情報工学科/工学研究科環境情報工学専攻 教授 (2011.4)

現在 環境エネルギー学科長



ごあいさつ

社会の要請に応え られる人材づくり

クリエイティブデザイン学科 学科長

両角 清隆 (もうすみ きよたか) 氏

1955年生まれ、長野県出身。金沢美術工芸大学、筑波大学大学院で工業デザインを学び、自動車メーカー・OA機器メーカーでデザイン実務を経験。

勤務しながら千葉大学大学院自然科学研究科で『わかりやすいユーザーインターフェイス』の研究を行う。2000年に東北工業大学工業意匠学科に就任。

現在 クリエイティブデザイン学科長



環境エネルギー学科は、現代社会の複雑な諸問題を解決するために、環境保護、エネルギー利用、経済成長の調和を目指して教育・研究を行う新しい文理融合の学科です。2012年4月に環境情報工学を基盤として環境エネルギー学科が発足しました。今年で4年目を迎え、来春初めての卒業生を送り出します。

世界の状況は厳しさを増しており、私たちの毎日の生活にも影響を与えています。このような時こそ自分を見失うことなく、じっくりと着実に自身の価値を高めていく努力が大切です。学科では、工学のみならず、様々な学問分野の知識や技術を養うことのできるカリキュラムを提供します。環境・エネルギーに対して幅広い興味・熱意を持ち、柔軟に考え、健全で持続可能な社会実現に向けて学生と共に学問をすすめています。

私の研究室では、電気自動車エコラン競技に挑戦しています。競技は指定のバッテリー電力で、サーキット(3.7Km)の周回を競うもので、急坂・平地での走法および車体の軽量化がポイントです。想定通りに競技を終えたときに味わう学生との達成感とは格別のものです。

東北地方では大震災復興に自然エネルギーを活用したメガソーラーやウィンドファーム構築などの環境エネルギー関連の人材が強く求められており、学生は就職において大きな力を発揮することができます。

学科の発展は、我々教職員と在学生が切り開いていくものですが、皆さんの社会での活躍ぶりがその一翼を担うものと思います。是非、大学で蓄積されました学びを活用しまして、自身の未来を思い描き、何事にも思い切ってチャレンジされる事を期待します。



1年生学外研修での「千年希望の丘」(岩沼下野郷)にて(宮内怜撮影)



2014 電気自動車エコラン競技大会 inSUGO でのチームのスタート前調整

日頃からご支援をいただいている同窓生の皆様にクリエイティブデザイン学科 (CD 学科) の近況・日常をご紹介したいと思います。

CD 学科も 2008 年からスタートして、早くも 8 年目になります (1967 年設置の工業意匠学科からですと 48 年目、再来年は 50 周年になります)。

教育内容は、初等中等教育の教育内容の変化に応じて、モノづくりの経験が必ずしも多くない学生でも徐々に技術を身に付けられるように工夫をしています。また、デザインという行為は個人的な創作行為ではなく社会の中で役に立つものを生み出すことだということを、講義や実習を通じて理解できるようにしています。社会とのつながりはコースごとに行う実習のほか、地域とのつながりの中で創作する七夕飾り (写真 1) や、産学連携や地域連携の中から生み出される製品やサービスづくりの中で養われます。4 年間の学びは、卒業研修として結実し、毎年 2 月にせんだいメディアテークで開催される卒展で発表されます (写真 2)。卒展と時期を合わせて OBOG 会も開催され、先輩後輩の親交を深めることができます。卒業制作や課題を見ることができる学科の作品データベースもリニューアルしましたので、ご覧いただきたいと思います (URL <http://web.design.tohtech.ac.jp/> (写真 3))。



(写真 1)
昨年度オープンキャンパスの七夕飾り

(写真 2) 2014 年度 卒展風景
(せんだいメディアテーク)



(写真 3) CD 学科作品データベース

ごあいさつ

安全安心生活 デザイン学科の未来

安全安心生活デザイン学科 学科長

小山 祐司 (こやま ゆうじ) 氏

1955年 山形県生まれ

1978年 東北大学工学部建築学科卒業、同大学院博士課程満期退学

1984年 東北工業大学助手、講師、准教授、教授

2014年3月から現職



本学科が新設されて、8年目になります。広く認知されてきていることが、漸く実感出来るようになってまいりました。高校生からも、非常時・平時の安全安心な暮らし、震災復興への取り組みなどに関する問い合わせが多くなってきております。また、就職活動におきましても、建設系に限らず、求人が多く寄せられ就職率も良好であります。

開設4年目に東日本大震災が起これ、仮設住宅や沿岸部の住宅移転に伴う地域コミュニティの再構築支援、沿岸部地場産業の復興支援などの取り組みが始まりました。現在でも、多くの教員が地域支援に関わり続けております。教員が地域の現場に関わり続けていることが、学生諸君の学びに大きな影響を与え続けています。年を経る毎に、復旧・復興の状況が変わり、支援のありかたも、変化してきております。4年が過ぎましたが、まだまだ、道半ばです。10年単位の歳月が必要だと思われまふ。

非常時の暮らしが、ここ暫くの喫緊の課題でありましたが、平時の暮らしの中にも安全で安心な暮らしをもたらす工夫を考える必要があることが、認識されて来ております。

学科創設の理念「生活者の視点に立つ安全で安心な生活デザイン」が、再認識されているのです。リアルな「地域」に視座を置いて、地域の変化を感じながら、「安全で安心な生活デザイン」づくりに取り組んでいくことが、生きた人材を育て社会に貢献する学科の役割であり、未来像ではないのかと考えております。



ごあいさつ

組織と地域に貢献できる 人材の育成を目指して

経営コミュニケーション学科 学科長

宮曾根 美香 (みやそね みか) 氏

国際基督教大学卒業、デュポン株式会社勤務を経て、ニューヨーク大学教育学大学院修了、東北大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士(教育学)。2008年よりライフデザイン学部経営コミュニケーション学科の所属となり、現在に至る。



経営コミュニケーション学科は2008年にライフデザイン学部の1学科として設置され、第4期までの卒業生を送り出しました。本学科は組織と地域に貢献できる人材の育成を目指し、経営およびコミュニケーションの知識とスキルを柱に、組織運営に必要なICT技術を養成します。また、社会における問題を、経営組織や経営戦略の見直し等、経営およびコミュニケーションのデザインという方法で解決を図ろうとし、そのための学びを深めます。

学科では1～2年、3～4年生のセミナー・研修で縦割りで輪読を行い、専門の知識に加え、情報処理や論理的思考、表現や討論の仕方を学びます。学生が問題意識を持ち解決策を見出すトレーニングにもなります。また、学科には「チャレンジ・アブロード・プログラム」という、事前研修と現地研修を経て自分の付加価値をつける科目があります。現地研修では、オーストラリアに2週間滞在しホームステイ、英語研修、マーケティングとコミュニケーションの知識を生かしたプロジェクト・ワーク、現地大学生との交流等、学科の学びを異文化において体感し、異文化理解を深めることができます。さらに、学科では「ケイコミュ」というミニコミ誌を発行し、学生が地元企業の取材や記事の作成をします。このように、経営コミュニケーション学科はグローバルかつローカルな姿勢を併せ持つ学科です。

本学科の歴史は浅いですが、卒業生の皆様が各所で活躍され、着実な軌跡を残してくださっています。後輩も先輩の皆様に続くことができるよう、教員一同全力で教育にあたっており、会員の皆様の変わらないご支援を賜りますようお願い申し上げます。



そんなこと・・・言いました？

建築学科
谷津 憲司 (やつ けんじ) 氏
1947年 宮城県生まれ
1970年 東北工業大学建築学科卒業
1970年 野生司建築設計事務所勤務
1971年 東北工業大学建築学科助手
1999年 東北工業大学建築学科教授
2015年 退職、名誉教授

卒業生から1通の手紙を受け取った。中には私の退任記念パーティ欠席のお詫びと、在学時代に私が言ったという、語録らしきものが10ばかり綴ってあった。大半は記憶にないことで、私も実践していたらもっとまじな半生を、と思うような内容である。改めて「お前はどうか？」と言われたようなもので、おまけに、これを心に留めて地域のために設計に励んでいるという。

退任記念誌で、私に、ああいわれた、こういわれたと書き連ね寄稿してくれた卒業生も同じで、言った当人は忘れてのことばかりだ。「そんなことは言うはずがないだろう！」「それは意味の取・り・違・え！」と叫びたくなる。

そういえば、「大学入試面接の時に教授にこういわれました」と、言う学生も少なくなかった。面接の最後には必ず褒めて帰すことにしているので、これは安心である。

2人きりのエレベータでは学生によく声を掛けた。「就職活動はどう？」「まだ2年生です」「論文どう！進んでる？」「研究室にはまだ所属していませんが・・・」こんな調子だから、記憶も定かではないが、あのとき

こう言われたと覚えている学生もいるから、「君に関心があるよ！」、という姿勢だけはとり続けたいと思っていた。

とはいうものの、大学を去って、改めて、語録らしきものを突きつけられると、ひるまざるを得ない。自分が吐いたとはいえ、まことに言葉は恐ろしい。「はい！、言葉に恥じないよう、つましく暮らしていきます」というのが最近の心境である。



退職後100日の記

建築学科

沼野 夏生 (ぬまの なつお) 氏

1947年 山形県生まれ
1979年 東北大学大学院工学研究科建築学
専攻博士課程修了
1998年 東北工業大学工学部 建築学科 教授
2010年 東北工業大学大学院工学研究科
建築学専攻主任
2015年 退職、本学名誉教授

工学部建築学科を退職して明日で100日目、という日にこれを書いています。

退職後に始めたことがまだ何ひとつまとまっていないので、少々早すぎる原稿依頼だなと思いつつも、何か書かなければ。思いつくことの寄せ集めになりそうなことは、お許し下さい。

仙台に月に2、3回行くほかは、主に新庄市の自宅で過ごしています。5月には久しぶりに、山菜採りを満喫…と言いたところですが、なぜかほとんど暇がなく、そうはいきませんでした。

学会の理事会・総会、表彰関係の委員会、受賞式、春季大会、研究打ち合わせ、論文や学会誌原稿の執筆等々、授業がないこと以外は退職以前とあまり変わりません。それどころか、むしろ多くなったかも。ただ、時間に縛られないことだけはつくづく有難く、それだけは満喫しています。また、大半は無償でも、仕事が多いことはボケ防止に役立つものと期待しています。

そんな中でも、任意団体「地域社会デザイン研究所」を6月に立ち上げました。まだ実績はありませんが、そのうちHPを作りますので、よろしくお引き立て下さい。

同じ6月には、昨年末に急逝した研究室同期の友人の追悼に、当時の仲間と富山に行ってきました。そろそろ1人欠け、2人欠け…となる時期にさしかかったことを実感した次第です。

少しずつ過ぎ来し方のとりまとめも始めているものの、まだこれからやりたいこと、やるべきことも多々あります。残りの時間を有効に使いたいこと切です。

最後にあえて提案をひとつ。共同研究者として参加していた科研費がまだ2年残っているのですが、退職に伴い研究協力者の立場になり、研究の自由度が著しく低下してしまいました。他大学では名誉教授に対し、審査の上科研費に応募する資格を与えているところもあります。要は大学の姿勢ひとつのようなので、競争的資金獲得を掲げる工大でも、今後は是非検討していただきたいものと思っています。



雪氷学会東北支部特別功績賞の受賞式で



富山で出身研究室の友人の追悼会に出席

関心事

都市マネジメント学科

稲村 肇 (いなむら はじめ) 氏

1945年 神奈川県生まれ
1974年 東京工業大学 大学院修了
1984年 東北大学 助教授
1992年 東北大学 教授
2010年 東北工業大学 教授
2015年 退職、本学名誉教授

右の図は青森市の今後25年間の5歳階級別人口の予測結果である。区別はつきにくいと思うが若年層の一番多いグラフがH22で一番少ないのが25年後である。これを見て、「人口減少と高齢化問題が深刻だ!」と言う人が多いけれど、私はそれほど心配していない。確かに高齢化はどんどん進むが、高齢者の絶対数も今後減っていくことが分かる。介護問題一つをとっても、老老介護が問題というがそんなことはない。ヒマで元気な老人が増加するので、大いに老老介護を推進すれば、若者の負担が減少する。要介護の高齢者が急増していると言うが、介護を担える元気な高齢者はそれ以上に増加している。75歳以上で要支援・要介護の人口比率は全国平均で32%。すなわち、高齢者の68%は支援も介護も不要な高齢者である。更に65歳～74歳の高齢者で要支援・要介護の人口比率はわずか4.37%で、95%以上は私を含め「スポーツでも介護でも何でも来い!」とまでは言わなくとも、支援側に回れる人が少なくないだろう。人口減少に伴い空き家の増加が問題となっている。空き家は治安上問題だが管理された空き地であれば環境面でも良い。図2、3は仙台市青葉区と埼玉県志木市の典型的住宅街を2400㎡の赤線で囲った。埼玉県の宅地は仙台の半分以上

下である。埼玉県では半数ぐらいの家が空き家となり、そこが管理された緑地になれば仙台並みの良好な住宅街になるだろう。そのためには空き家に対する極端な固定資産税の優遇税制(83%引き)を廃止することが先決であるが。



本年3月大学を退官し、名誉教授にいただき、大変感謝しています。そこで、最近はこんなこと(研究)を考えています。

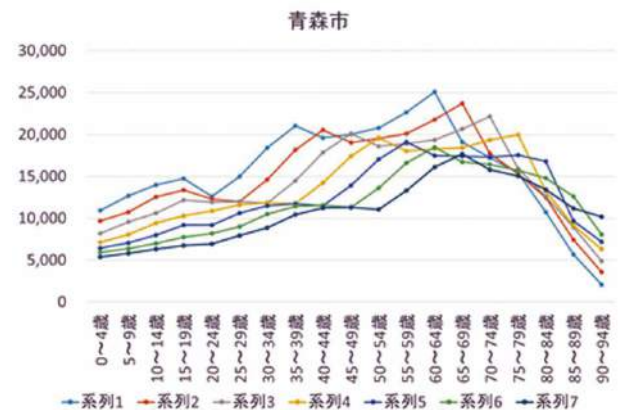


図-2 仙台市青葉区



図-3 埼玉県志木市

東北工業大学同窓会30年の歩み

1968

4. 1 電子、通信工学科同窓会発足（会長 榎本 幹）

1973

4. 1 土木工学科同窓会発足（会長 今野 弘）

1978

6. 東北工業大学4学科同窓会
地震災害対策委員会設置及び募金活動開始

1979

- 5.19 建築学科同窓会発足（会長 伊藤憲雄）
8.15 電子、通信工学科同窓会改組（会長 長沼龍一）

1981

- 11.22 工業意匠学科同窓会発足（会長 佐藤 明）

1984

9. 各学科同窓会各代表者会議
9.18 各学科同窓会事務局レベルでの打合せ

1985

- 1.24 各学科同窓会代表者による打合せ
2. 8 第1回同窓会連合準備委員会開催
3. 1 各学科同窓会準備委員庶務会議
3.16 第2回同窓会連合準備委員会開催
4. 8 各学科同窓会準備委員庶務会議
4.13 第3回同窓会連合準備委員会開催
6.18 各学科同窓会準備委員庶務会議
7.13 東北工業大学同窓会結成（各学科同窓会の連合なる）
7.30 同窓会役員会議開催
8.28 同上
10. 9 東北工業大学同窓会第1回総会開催

1986

- 8.25 東北工業大学同窓会第2回総会開催

1987

- 8.24 東北工業大学同窓会第3回総会開催

1988

8. 東北工業大学同窓会第4回総会開催

1989

- 8.26 東北工業大学同窓会第5回総会開催
8.26 東北工業大学開設25周年記念事業寄付金募集開始

1990

- 8.27 東北工業大学同窓会第6回総会開催

1991

- 8.23 東北工業大学同窓会第7回総会開催
10. 5 東北工業大学同窓会名簿作成準備検討委員会発足
（委員長 菊地信行）

1992

- 8.22 東北工業大学同窓会第8回総会開催

1993

8. 東北工業大学同窓会第9回総会開催

1994

- 8.21 東北工業大学同窓会第10回総会開催
3. 新卒業者名簿の作成

1995

- 8.25 東北工業大学同窓会第11回総会開催
3. 新卒業者名簿の作成

1996

- 5～6 第12回父母懇談会（仙台）の就職講演会で秋元会長が講演
8.23 東北工業大学同窓会第12回総会開催
10.19 東北工業大学同窓会設立10周年記念講演会・記念交流会
（於、メトロポリタン仙台）

東北工業大学同窓会設立10周年
記念講演会・記念交流会
～新たなネットワークをめざして～
日時 平成8年10月19日（土）
16:00～19:00
会場 ホテルメトロポリタン仙台

●主催：東北工業大学同窓会
●共催：東北工業大学電子通信工学科同窓会
：東北工業大学建築学科同窓会
：東北工業大学土木工学科同窓会
：東北工業大学工業意匠学科同窓会
●後援：東北工業大学後援会

プログラム

＜Ⅰ部＞「記念講演会」——15:30～17:30
・受付
・開会宣言（司会進行：佐藤 明）
・同窓会長挨拶（秋元俊通）
・来賓祝辞（東北工業大学 理事長：工藤 寛樹）
・「記念講演」
講師：岩崎俊一先生（東北工業大学学長）
演題：「研究と創造～電気記録の研究を通して～」

学 長 経 歴

・福島県出身
・S24. 3 東北大学工学部通信工学科卒業
・S34. 4 工学博士（東北大学）の学位授与
・S39. 6 東北大学電気通信研究所教授
・S61. 4 東北大学電気通信研究所長
・H元. 4 東北工業大学学長に就任
・H3. 7 日本学術会議会員
・S60. 11 日本応用電気学会 論文賞
・S61. 6 藤原賞（藤原賞学財団）
・S61. 11 日本応用電気学会 学会賞
・S62. 6 日本学士院賞
——高密度電気記録の研究により
学術の進歩に著しい貢献——
・S62. 11 文化功労者表彰
——コンピュータなどに使われる電気テ
ープ、ディスクの電気記録方式を高
密度化する研究で優れた業績——
・S63. 3 IEEEコンピュータ学会エディ
（米国電気電子学会）
——高密度電気記録に
大なる貢献をした学術業績賞——
・S63. 4 科学技術庁長官賞（科学技術功労者）
——垂直電気記録方式の研究開発——
・H元. 3 グレド・ブルネット賞
IEEE Fields Award
（米国電気電子学会フィールズ賞）
——電気記録システムの
小型化に対する優れた貢献——
・H2. 1 河北文化賞（河北文化事業団）
・H5. 10 C&C賞（C&C振興財団）
・H6. 1 「講義録の魂」での講演
・H8. 1 高橋記念賞
（高橋記念電子科学技術振興財団）

＜Ⅱ部＞「記念交流会」——17:30～19:45

・受付
・参加者、招待者入場
・開会宣言（司会進行：来賓祝辞）
・挨拶（東北工業大学同窓会 副会長：西條俊郎）
・来賓祝辞（東北工業大学 学長：岩崎俊一先生）
（東北工業大学後援会 会長：高橋久智様）
・来賓紹介
・乾 杯（東北工業大学 学長補佐：沼田 淳先生）
・懇 談
・中絶



▲ 記念講演会場 ▲ 秋元会長挨拶



▲ 記念講演 工藤理事長祝辞



▲ 記念講演 東北工業大学学長 岩崎俊一先生による講演



▲ 記念交流会 学長補佐沼田先生による乾杯の音頭・後援会副会長の祝辞



▲ 記念交流会会場風景 ▲ 記念テレホンカード

3. 新卒業者名簿の作成

1997

- 5～6 第13回父母懇談会の就職講演会で佐藤副会長（盛岡市）／西
条副会長（秋田市）／秋元会長（新潟市）／桑原氏－T科1
年生（仙台）の各氏が講演
8.22 東北工業大学同窓会第13回総会開催
10. 2 東北工業大学同窓会臨時総会開催
11.11 新潟支部設立発会式（新潟市）

1998

4. 本学入学式で秋元会長が祝辞 新入生に入学記念品を進呈
5～6 東北工業大学後援会（主催）第14回父母懇談会に講演の講師
派遣 西条副会長（郡山会場）／秋元会長（青森会場）が講演
7. 新体制による同窓会ニュースを発行
8. 東北工業大学同窓会第14回定時総会

同窓会の窓口として東北工業大学大学事務局就職課の協力を
受けることとなる

- 4～3 理事会開催 (4、6、7、8、10、12、3)
- 10～2 事務局体制として学内に在籍する OB 構成員による「運営委員会」を設置。運営委員会開催 (10、11、2)
- 12. 東北工業大学後援会の役員との交流
- 3. 新卒者の名簿発行
- 3. 本学卒業式で西條芳郎副会長が祝辞。卒業者に卒業記念品を進呈

- 1999
 - 4. 本学入学式で秋元会長が祝辞 新入生に入学記念品を進呈
 - 5. 東北工業大学後援会 (主催) の第 15 回父母懇談会に講演の講師派遣 秋元会長 (盛岡会場) が講演
 - 5・7 同窓会ニュース編集委員会開催
 - 7. 同窓会ニュースを発行
 - 8. 東北工業大学同窓会第 15 回定時総会
 - 10. 同窓会ホームページの開設
- 6～12 理事会開催 (6、7、12)
- 5～11 運営委員会開催 (5、7、9、10、11)
 - 1. 同窓会貸与奨学金制度を発足
 - 3. 新卒者の名簿発行
 - 3. 本学卒業式で井出幸成氏 (D 科卒) が祝辞。卒業者に卒業記念品を進呈
 - 3. 東北工業大学後援会の役員との交流

- 2000
 - 4. 本学入学式で秋元会長が祝辞 新入生に記念品を贈呈
 - 5. 東北工業大学後援会 (主催) 第 16 回父母懇談会に講演の講師派遣 西條副会長 (山形会場) が講演
 - 4・6 同窓会ニュース編集委員会開催
 - 7. 同窓会ニュースを発行
 - 8. 東北工業大学同窓会第 16 回定時総会



▲第 16 回東北工業大学同窓会定時総会・懇親会

- 7・1 理事会開催
- 4～3 運営委員会開催 (4、6、11、2、3)
 - 2. 札幌支部発足を目指し役員を派遣
 - 3. 新卒者の名簿発行
 - 3. 卒業者に卒業記念品を進呈
 - 3. 東北工業大学後援会の役員との交流

- 2001
 - 4. 新入生に入学記念品を進呈
 - 5. 東北工業大学後援会 (主催) 第 17 回父母懇談会に講演の講師派遣 西條副会長が講演 (岩手会場)
 - 5. 青森支部役員と東北工業大学後援会青森支部との交流会
 - 4・6 同窓会ニュース編集委員会開催
 - 7. 同窓会ニュースを発行
 - 8. 本学インターシップ事業に OB の協力が強まる
 - 8. 東北工業大学同窓会第 17 回定時総会
 - 8. 理事会開催
- 4～11 運営委員会開催 (4、5、9、10、11)
- 10～12 2002 年度版名簿発行に関する打ち合わせ (10、11、12)
- 1.25 2002 年度版名簿発行



▲第 17 回東北工業大学同窓会定時総会

- 2.14 東北工業大学後援会の役員との交流
- 3.19 新卒者の名簿発行
- 3.19 卒業者に卒業記念品を進呈

2002

- 4. 7 新入生に入学記念品を進呈
- 5.31 青森支部役員と東北工業大学後援会青森県支部連絡会へ本部役員派遣
- 5. 渡部幸一氏 (新潟支部会長) 急逝
- 6. 東北工業大学後援会 (主催) 第 18 回父母懇談会に講演の講師派遣 6/1 西條副会長 (福島会場) / 6/2 遠藤広報担当理事 (山形会場) が講演
- 5～7 同窓会ニュース編集委員会開催 (5/23、7/11、7/18)
- 7. 同窓会ニュース (vol.6) を発行
- 7～3 理事会開催 (7/22、8/9、'03.1/29、'03.3/20)
- 8.24 東北工業大学同窓会第 18 回定時総会
- 8.28 北海道支部設立準備委員会への恩師・本部役員派遣
- 11. ホームページ委員会 (11/5、11/9)
- 11. 9 新潟支部への恩師派遣
- 5～2 運営委員会開催 (5/16、7/15、10/30、11/26、2/26)
- 2.22 同窓会・後援会新潟支部主催の新潟県内企業就職内定学生との懇談会への恩師派遣
- 3.20 新卒者の名簿発行
- 3.20 卒業者に卒業記念品を進呈



▲第 18 回東北工業大学同窓会定時総会

2003

- 4. 7 新入生に入学記念品を進呈
- 6. 7 青森支部役員と東北工業大学後援会青森県支部との交流会
- 5.12 東北工業大学後援会役員との連絡会議
- 5・6 東北工業大学後援会 (主催) 第 19 回父母懇談会に講演の講師派遣 5/25 遠藤広報担当理事 (秋田会場) / 6/ 西條副会長 (仙台会場) が講演
- 6. 7 青森県同窓会・後援会支部連絡会への本部役員派遣
- 5～7 同窓会ニュース編集委員会開催 (5/23、7/11、7/18)
- 7. 同窓会ニュース (vol.7) を発行
- 7.24 理事会開催
- 8.23 東北工業大学同窓会第 19 回定時総会
- 8. 4 ホームページ委員会
ホームページリニューアル (10 月公開)
- 8.27 北海道支部総会への恩師・本部役員派遣
- 10. 1 東北工業大学一番町ロビー開所式典
- 10.17 新潟支部への恩師派遣
- 10.17 東北工業大学後援会の役員との連絡会議
- 5～3 運営委員会開催 (5/23、7/18、9/19、3/5)
- 3.19 新卒者の名簿発行
- 3.20 卒業者に卒業記念品を進呈

2004

- 4. 6 新入生に入学記念品を進呈
- 6. 4 株式会社ユアテック職域支部設立総会へ本部役員派遣
- 6.17 青森県同窓会・後援会支部連絡会への本部役員派遣
- 6. 東北工業大学後援会 (主催) 第 20 回父母懇談会に講演の講師派遣 6/5 遠藤広報担当理事 (福島会場) / 6/12 西條副会長 (青森会場) が講演
- 7. 同窓会ニュース (vol.8) を発行
- 8.28 東北工業大学同窓会第 20 回定時総会
- 8.28 新潟支部総会本部役員派遣
- 9.18 後援会青森支部幹事会への本部役員派遣
- 10. 1 東北工業大学一番町ロビー開所一周年記念式典
- 10. 1 東北工業大学後援会役員との連絡会
- 12. 3 東北工業大学経済交流会との連絡会

- 1.21 大学局と後援会役員会との連絡会
- 6～2 運営委員会開催（6/16、7/13、2/15）
- 5～2 同窓会ニュース（工大人）編集委員会（5/6、6/16、7/13、2/9）
- 2. 9 ホームページ委員会開催
- 6～3 理事会開催（6/25、8/10、9/10、12/26、3/14）
- 10～3 20周年記念行事実行委員会開催（10/15、11/15、1/24、2/11、3/2）
- 3.18 卒業者に卒業記念品を進呈

2005

- 4. 6 新入生に入学記念品を進呈
- 5. 6 東北工業大学後援会（主催）第21回父母懇談会に講演の講師派遣 5/28 西條副会長（秋田会場）／5/29 遠藤広報担当理事（盛岡会場）／6/12 秋元会長（仙台会場）が講演
- 6. 3 青森県同窓会・後援会支部総会へ本部役員他派遣（高橋総務部長、菊地運営委員長、他）
- 6. 5 北海道同窓会・後援会支部連絡会へOB教職員派遣（今野、斉藤）
- 4～7 同窓会ニュース（工大人）編集委員会（4/27、6/17、7/10）
- 7. 同窓会ニュース（vol.9）を発行
- 8.31 北海道支部総会へ本部役員・OB教職員他派遣（榎本運営委員、船木運営委員、庄司監事他）
- 8.27 東北工業大学同窓会第21回定時総会
- 10. 1 同窓会設立20周年記念・記念対談（会場：本学トーテックメモリアルホール）
全学同窓会設立20周年記念懇親会の開催（会場：ホテル仙台プラザ）
全学同窓会設立20周年記念事業で、岩崎俊一氏（本学理事長・学長）と樋口陽一氏（東京大学名誉教授）による記念対談が実現。テーマは「科学技術と文化」とし、立花鶴憲氏（河北新報論説委員長）がコーディネーターを務める
- 10. 9 岩崎俊一氏（本学理事長・学長）と樋口陽一氏（東京大学名誉教授）による記念対談内容が河北新報全紙2面に掲載

東北工業大学同窓会創立20周年記念事業 樋口陽一先生・岩崎俊一先生対談 「科学技術と文化」

～新たなネットワークをめざして～

日時：平成17年10月1日（日）14:00～16:00 会場：東北工業大学トーテックメモリアルホール



平成17年10月9日河北新報に掲載された記事

- 7～11 20周年記念行事実行委員会開催（7/25、8/18、10/12、11/5）
- 7～2 理事会開催（7/27、8/9、2/2）
- 12・2 東北工業大学経済交流会との連絡会へ役員派遣（秋元会長他）（12/2、2/23）
- 7～3 運営委員会開催（7/12、9/2、9/21、10/7、12/26、3/2）
- 3. 20周年記念事業「記念対談冊子」完成
- 3.17 卒業者に卒業記念品を進呈

2006

- 4. 4 新入生に入学記念品を進呈
- 4・5 同窓会ニュース（工大人）編集委員会（4/25、5/25）
- 6. 3 青森県同窓会・後援会支部連絡会への本部役員派遣（佐藤副会長、遠藤広報担当理事、他）
- 6. 東北工業大学後援会（主催）第22回父母懇談会に講演の講師派遣 6/3 秋元会長（郡山会場）／6/4 遠藤広報担当理事（青森会場）／6/4 西條副会長（山形会場）が講演
- 6.30 仙建工業株式会社同窓会職域支部設立準備会に役員派遣
- 7. 同窓会ニュース（vol.10）を発行
- 8.26 東北工業大学同窓会第22回定時総会（会場：ホテル仙台プラザ）
- 9.15 東北工業大学香澄町キャンパス新1号館、東北工業大学高等学校新1号館、合同落成記念式典・祝賀会への本部役員派遣
- 9.29 東北工業大学へ教育振興資金寄付（1000万円）
- 10. 5 総会等への参加者増員のための施策検討会議
- 10・12 東北工業大学経済交流会と連絡会へ役員派遣（10/5、12/14）
- 1.27 同窓会臨時総会 東北工業大学香澄町キャンパス
- 2. 9 ホームページ委員会
- 8～3 理事会（8/10、9/7、10/12、2/28、3/6、3/7）
- 6～3 運営委員会（6/26、7/11、7/14、7/22、12/26、2/20、3/5、3/7）
- 2.16 卒業記念品の贈呈



▲第22回定時総会懇親会

2007

- 4. 3 入学記念品の贈呈
- 5.19 東北工業大学知能エレクトロニクス学科記念シンポジウムへ役員派遣
- 6. 2 同窓会青森県支部連絡会・後援会父母懇談会秋田会場へ本部役員他派遣
- 6.26 同窓会ニュース（工大人）編集委員会
- 8.28 同窓会北海道支部懇親会へ本部役員他派遣
- 9.29 同窓会青森県支部総会へ本部役員他派遣
- 10.20 東北工業大学同窓会第23回定時総会（会場：東北工業大学香澄町キャンパス）
課外活動等への支援（大学祭実行委員会へパイプテント5張贈呈・空手道部へ全日本空手選手権大会参加費の支援）
- 11.10 後援会岩手県支部幹事会へ本部役員他派遣
- 2. 5 東北工業大学経済交流会クリスマス会へ役員派遣
- 8～3 理事会（8/6、9/13、10/9、3/7）
- 7～3 運営委員会（7/11、9/6、3/4）
- 3. 4 東北工業大学経済交流会第2回例会へ役員派遣
- 3.19 卒業記念品の贈呈

2008

- 4. 3 入学記念品の贈呈
- 6. 7 同窓会青森県支部・新潟県支部総会へ本部役員他派遣
- 6. 9 東北工業大学経済交流会総会へ役員派遣
- 10. 4 東北工業大学同窓会第24回定時総会（会場：仙台ホテル）
課外活動等への支援（吹奏楽部への物品援助）
- 10. 9 東北工業大学経済交流会第1回例会へ役員派遣
- 12. 8 東北工業大学経済交流会クリスマス会へ役員派遣

- 8～3 理事会（8/27、9/24、2/27、3/6）
- 7～3 運営委員会（7/30、8/27、2/25、3/4）
- 3. 9 東北工業大学経済交流会第2回例会へ役員派遣
- 3.19 卒業記念品の贈呈

2009

- 4. 3 入学記念品の贈呈
- 6.19 同窓会青森県支部懇談会へ本部役員他派遣
- 8.25 同窓会北海道支部懇親会へ本部役員他派遣
- 9. 1 東北工業大学経済交流会総会・懇親会へ役員派遣
- 9.26 東北工業大学同窓会第25回定時総会（会場：仙台国際ホテル）
- 10.31 後援会岩手県支部幹事会へ本部役員他派遣
- 12. 7 東北工業大学経済交流会クリスマス会へ役員派遣
- 2.19 岩手県北上支部総会へ本部役員他派遣
- 2.25 運営委員会
- 4～3 理事会（4/25、9/14、11/10、12/5、2/20、3/1）
- 3.16 東北工業大学経済交流会第2回例会へ役員派遣
- 3.19 卒業記念品の贈呈

2010

- 4. 3 入学記念品の贈呈
- 4.21 日本国際賞受賞式へ本部役員他派遣
- 6. 5 岩手県同窓生の集いへ本部役員他派遣
- 6. 9 東北工業大学経済交流会総会懇親会へ役員派遣
- 6.16 同窓会主催シンポジウム開催（青森県）・同窓会青森県支部懇親会へ本部役員他派遣
- 6.18 日本国際賞受賞記念講演会へ本部役員他派遣
- 9.13 東北工業大学経済交流会第1回例会へ役員派遣
- 10. 9 東北工業大学同窓会第26回定時総会（会場：仙台国際ホテル）
- 11.13 後援会岩手県支部役員会へ本部役員他派遣
- 12. 7 東北工業大学経済交流会クリスマス会へ役員派遣
- 5～1 理事会（5/10、9/9、1/28）
- 2. 2 第2回新規大卒者等合同就職面接会バスツアーへの支援
- 2.18 岩手県北上支部総会へ本部役員他派遣
- 2.21 東北工業大学経済交流会第2回例会へ役員派遣

2011

- 5. 9 入学記念品の贈呈
- 4～7 理事会（4/14、5/23、7/4、7/22）
- 7.27 東北工業大学経済交流会総会・懇親会へ役員派遣
- 9. 2 東北工業大学青森県支部連絡会議へ役員派遣
- 9.10 岩手県東北工業大学同窓会の集いへ役員派遣
- 10. 1 東北工業大学同窓会第27回定時総会（会場：ホテルメトロポリタン仙台）
- 10.20 工大高校創立50周年記念式典・祝賀会役員派遣
- 11. 5 後援会岩手県支部役員会へ役員派遣
- 12. 5 東北工業大学経済交流会クリスマス会へ役員派遣
- 2.17 東北工業大学同窓会北上支部懇親会へ役員派遣
- 3.15 ライフデザイン学部退職記念行事へ役員派遣

2012

- 4. 3 入学記念品の贈呈
- 4. 岩崎理事長講演集作成
- 4～3 理事会（4/12、6/5、7/10、9/25、3/6）
- 6. 課外活動等への支援（ボランティア部活動資金／チアリーダー部大型ミラー／大型バス維持管理）
- 6. 2 岩手県東北工業大学同窓生の集いへ役員派遣
- 6. 9 6.9 東北工業大学青森県支部同窓会へ役員派遣
- 6.16 6.16 福島県東北工業大学同窓生の集いへ役員派遣
- 6.26 6.26 東北工業大学経済交流会総会・懇親会へ役員派遣
- 9. 本学OB中沢正人氏ロンドンパラリンピック出場記念祝い金の贈呈
- 10. 6 東北工業大学同窓会第28回定時総会（会場：仙台国際ホテル）
- 10.27 東北工業大学後援会岩手県支部幹事会へ役員派遣

- 12. 5 東北工業大学経済交流会クリスマス会へ役員派遣
- 2.15 東北工業大学同窓会北上支部懇親会へ役員派遣
- 3. 6 東北工業大学後援会顧問懇談会へ役員派遣
- 3.19 卒業記念品の贈呈

2013

- 4. 3 入学記念品の贈呈
- 4～2 理事会（4/2、9/12、9/17、2/12）
- 6. 3 東北工業大学経済交流会総会懇親会へ役員派遣
- 6. 8 福島県東北工業大学同窓生の集いへ本部役員派遣
- 6.14 秋田県東北工業大学同窓生の集い準備会へ本部役員派遣
- 6.15 東北工業大学後援会父母懇談会秋田会場へ役員派遣
- 6.15 岩手県東北工業大学同窓生の集いへ本部役員派遣
- 7. 課外活動等への支援（報道部会パソコン／大学祭テント／準硬式野球部芝刈り機、弓道部弓矢）
- 8. ハワイ国際野球大会選拔選手・監督（本学OB）派遣経費助成
- 9. 大学施設設備支援（長町キャンパス4号館前バス停ルーフ）
- 9.28 東北工業大学同窓会第29回定時総会（会場：仙台国際ホテル）
- 10. 東北工業大学一番町ロビー10周年記念事業企画支援
- 10.26 東北工業大学後援会岩手県支部幹事会へ役員派遣
- 11. 9 東北工業大学後援会福島県支部幹事会へ役員派遣
- 12. 2 東北工業大学経済交流会クリスマス会へ役員派遣
- 2.14 東北工業大学同窓会北上支部懇親会へ役員派遣
- 1. 大学設立50周年記念事業 大学教育振興助成基金への寄付
- 1.24 岩崎俊一理事長文化勲章受賞を祝う会へ役員派遣
- 3.12 長町キャンパス野球場室内練習場落成式へ役員派遣
- 3.20 卒業記念品の贈呈

2014

- 4. 3 入学記念品の贈呈
- 4.00 岩崎俊一理事長「ベンジャミン・フランクリン・メダル」受賞祝い
- 5～3 理事会（5/30、7/23、10/7、1/29、1/30、3/9）
- 5.31 岩手県東北工業大学同窓生の集いへ本部役員派遣
- 6～3 運営委員会（6/27、7/23、1/22、3/5）
- 6. 1 福島県東北工業大学同窓生の集いへ本部役員派遣
- 6. 7 東北工業大学同窓会青森県支部幹事会へ役員派遣
- 6. 9 東北工業大学経済交流会総会へ役員派遣
- 6.21 東北工業大学創立50周年記念式典へ役員派遣
- 7. 東北工業大学創立50周年記念河北新報朝刊特集広告協賛
- 7.19 秋田県東北工業大学同窓生の集いへ本部役員派遣
- 10.22 東北工業大学経済交流会例会へ役員派遣
- 10.25 東北工業大学同窓会第30回定時総会（会場：仙台国際ホテル）
- 12. 3 東北工業大学経済交流会クリスマス会へ役員派遣
- 2.20 東北工業大学同窓会北上支部懇親会へ役員派遣
- 3. 同窓会設立30周年記念事業（新クラブ棟物品援助）
- 3.20 卒業記念品の贈呈

2015

- 4. 3 入学記念品の贈呈
- 5～ 理事会（5/20、7/29）
- 6. 2 東北工業大学経済交流会総会へ役員派遣
- 6.13 東北工業大学同窓会青森支部総会へ役員派遣
- 7. 課外活動等への支援（バレーボール部ユニフォーム、大学祭音響機器）

工大と同窓会のこれからの 50 年を考える

就職率の高さ、学生たちへの面倒見の良さ、
地域社会に深く貢献するOB・OGたちの影響力の強さなど、
工大の「強味」、OB・OGたちの活躍を
今こそ内外にアピールしよう！



2015 年 7 月 7 日（火） 於・東北工業大学八木山キャンパス一号館 4 F



佐藤 明
(大学COC事業プロデューサー)

進 行 佐 藤 明
(大学COC事業プロデューサー)

出席者 (発言順)

木 戸	博	(情報通信工学科教授)
船 木	尚 己	(建築学科准教授)
中 島	敏	(安全安心生活デザイン学科教授)
高 橋	正 行	(大学事務局次長)
目 黒	裕 二	(教務学生課課長)
伊 藤	まり子	(キャリアサポート課)
榎 本	幹	(名誉教授)
佐 藤	篤	(環境エネルギー学科准教授)

佐藤■ 昨年、東北工業大学（以下、工大）は創立50周年を迎えました。そして今年は各学科連合による同窓会が30周年を迎えました。そこで本日は工大教職員として活躍しているOB・OGの方においでいただき、OBとしての思い、現在の活動、今後に期待することなど、語っていただきたいと思います。建設的なご提案を期待できる方々を、あえて選ばしていただきました（笑）。

お目付役として、榎本先生にもご参加いただき、忌憚のないご意見をお伺いしたいと思います。

まずは自己紹介をかねて、本学に対する想いを語っていただきたいと思います。

工大へのあつい想いを語る

木戸■ 情報通信工学科で教員をしております。本学に赴任して11年です。正直なところ、教員にだけはなりたくないと思っていましたが、成り行きで現在に至っております。ちなみに前職は警察庁です。



木戸 博
(情報通信工学科教授)

成り行きとは、広島で学会が行われた際、偶然にも恩師の水野尚先生（元通信工学科）に卒業後20年ぶりにお会いし、工大で今、教員を募集しているから、工大のために頑張ってみないかと誘われた次第です。

高校時代、私は心を病んでいました。今思えば、思春期によくあることではあります。小中高の経験から学校に対する嫌悪感がありましたが、工大に入り、人格的に優れた先生や優しい仲間たちと出会い、心が開かれ癒されました。工大が私を元気にしてくれたという思いが強く、自分が役に立てるならと決断しました。それに、警察庁などの国の組織は、有名大学の出身者が幅を利かす職場でした。なんとか工大からも多くの卒業生を送りこみたいという野心も当时はありました。

念願かなって、今は就職担当をやっております。国の中枢に工大生を送り込む野望はなかなか厳しく、現実を見ると心がボロボロになるときもあります（笑）。とは言え、現在は日々楽しく（妙なストレスもなく）、自分が活かされていると感じる毎日です。

船木■ 私は平成元年に工大に入学、5年に卒業しました。

父が構造建築事務所をやっておられて、自分も父と同じように技術者として仕事をするつもりで工大に入学しました。工大には、制振構造の研究を日本に先駆けてやっておられた、川股重也先生（本学名誉教授）がいらっしゃって、ぜひ先生の研究室で勉強がしたいと思って、工大を選びました。川股先生の研究室はとても人気があって、研究室配属は抽

選だったのですが、運よく研究室に入ることができました。研究室に入ったときは、まだ設計事務所をやりたいと思っていましたが、実際に研修を始めると研究がおもしろくなり、また、川股先生の楽しそうに研究する姿を見て、大学の教員もいいなと思っていたところに、ちょうど大学院ができたので大学院に進むことにしました。その当時は、まだ修士課程までだったのですが、ちょうど私が修了する時に、博士後期課程もでき、学部も含めて川股重也先生のところで6年間お世話になりました。



船木 尚己
(建築学科准教授)

さらに、博士課程が修了したときに、ハイテク・リサーチ・センター事業が立ち上がり、その研究員として3年間お世話になりました。その後、先生が退職なさり、その後を引き継ぐという形で現職に就きました。何だかすごく恵まれた環境で、今に至るという感じです。

私が大学に入学した年に、岩崎俊一先生が学長として来られました。大学院の設立、その後のハイテク・リサーチ・センター事業の立ち上げは、岩崎先生が中心となって作り上げてきたものです。そう考えると、私はまさに岩崎先生がこれまでに作り上げてこられた歴史とともに歩んできたと思っていて、その点では非常に感謝しています。ハイテク・リサーチ・センター事業の成果報告会で私も報告させていただいたのですが、そのあとで岩崎先生に呼ばれて、内容についてお褒めの言葉をいただき、その時、「創造から統合へ」というロゴの入ったネクタイピンをいただきました。それは今でも大切に持っています。

私が大学に入学した年に、岩崎俊一先生が学長として来られました。大学院の設立、その後のハイテク・リサーチ・センター事業の立ち上げは、岩崎先生が中心となって作り上げてきたものです。そう考えると、私はまさに岩崎先生がこれまでに作り上げてこられた歴史とともに歩んできたと思っていて、その点では非常に感謝しています。ハイテク・リサーチ・センター事業の成果報告会で私も報告させていただいたのですが、そのあとで岩崎先生に呼ばれて、内容についてお褒めの言葉をいただき、その時、「創造から統合へ」というロゴの入ったネクタイピンをいただきました。それは今でも大切に持っています。

中島■ 本学の教員になって1年3ヵ月、来年で60歳になります。

私も木戸先生と同様、絶対に教員にだけはならない、そういう性格じゃないと思っていました。

SD（安全安心生活デザイン）学科の菊地良覺先生から「お前は教員になれ」と耳元で脅され（笑）、今に至っている次第です。

東京で6年ほど開発畑にいて、アイリスオーヤマで20年間デザイナーをして、最後には執行役員をしていたので、けっこういいお金をもらっていたのに、それを棒に振って会社を作りました。



学生時代には、山下三郎先生のもとでデザイ

中島 敏
(安全安心生活デザイン学科教授)

ナーを目指していました。その山下先生が「デザイナーを目指すなら、デザイン事務所をやりなさい」という口車に乗せられて（笑）、それで、10年、会社をやってきました。

また非常勤として、アイリスオーヤマの時で5年間、最初はマーケティングをやり、その後クリエイティブデザインで10数年間、大山健太郎さんの替わりを務めてきました。そこを評価されたのでしょうか。

ずーっと教員になることを断り続けてきたんですが、ここにきたきっかけは、晴天の霹靂といいますか、3・11の東日本大震災に遭ったからです。

あの日、自宅と会社を流され、工大からも3名、来てくれていたんですが、その内、2名の社員を失いました。工大の理事長、当時の学長初め多くの方々から、精神的にも物理的にも支援を受け、どうにか再建できました。

その恩返しができないかと菊地先生から騙され（笑）、学生と一緒に支援活動をしています。「荒浜アカデミア」の実行委員などもしております、COO活動を始めて今に至っています。

高橋 ■私は、昭和58年に土木工学科を卒業しました。在学中にお恩師の外門正直先生の指導の下で



高橋 正行
(大学事務局次長)

触れ興味を持ったコンクリートに関わる仕事をしながら、在学中、アルペンスキーをしていたこともあり、顧問の高田潤一先生の下で、後輩スキー部員らの指導もしておりました。35歳の時、ご縁がありまして現在の事務の仕事に就くこととなりました。勤め始めのころは、全く異なる職種なので大変でしたが、なんとか現在に至っております。

す。後輩の指導、スキー部ですが、部員不在のため廃部となってしまいました。誠に残念です。

目黒 ■平成8年に電子工学科（現知能エレクトロニクス学科）を卒業しました。電気工事会社に勤務しながら、本学硬式野球部のコーチをしてました。その後、本学職員に採用していただき15年になります。現在は、教務学生課に勤務しており、学生の就職活動以外の学生生活のサポートをしています。



目黒 裕二
(教務学生課課長)

伊藤 ■私が卒業する時は、就職氷河期だったんです。学部は文系で卒業したため、就職が難しく、

理系の技術職で就職か研究職に就きたかったんです。そのころちょうど本学にデザイン工学研究科大学院ができたこともあり、その一期生として修了させていただき技術職に就くことができました。

その後またご縁があり、研究職で本学にお世話になりました。東北大学の研究所に就職したの

ですが、人事発令の関係で事務職となりました。技術職、研究職を目指していたものの研究者をサポートする立場にまわってから、本格的に事務職に就きたいと思った時、求人募集があった工大に申し込み、運よく採用していただき現在に至るということです。今年で、6年になります。



伊藤 まり子
(キャリアサポート課)



同窓会より野球部室内練習場建設へ補助

工大の明日をどうしたいか

佐藤 ■皆様のお話を伺うと、本学の恩師の先生の影響というものが、非常に強く感じられます。人生のキポイントに、工大の先生方に影響を受けられている、そんな印象を受けました。

実は私も工業意匠学科長だった秋岡芳夫先生から、それも在学中というよりもむしろ卒業してから、県立公設試職員として、地域や産業活性化に向けた活動の指導を受けながらやって来た感があります。

皆さまは今は逆に、学生に影響を与える立場にいるかと思います。今度は本学の先生という立場から、工大の次の10年を、どういう大学にしたいか、社会人として育てていく若い学生を、どう育てたいのか、ご意見を伺いたいと思います。

木戸 ■私は若い学生を育てることに遣り甲斐を感じています。しかし、そもそも教員にだけはなりたくなかったわけですから一般的な教員としての感覚とは、ちょっとずれているかもしれません。私は就職と同時に警察大学校に入りました。ここでは、部下を持ったときの心構えや指導方法を学びました。部

下の心情を把握し、統率するためにどうするか、部下の能力を伸ばすためにどのように対応するかということ。

部下をどう導くかということは、学生をどう育てるかという観点と共通していると思います。振り返ると、警察大学校での経験が今、とても役立っています。学生たちには、自分のことだけしか考えられない人間ではなく、他者のため、世の中のために頑張れる人間になって欲しいと願っています。

まだ教員モドキ（笑）ですが、あらためて感じる場所です。

船木■教員になって12年ぐらいです。今までこういう学生に育てたいと思った事はありません。川俣先生がそうだったんですが、自分が楽しくやっていたら、学生はついてきてくれる、そういうスタンスだったので、自分もそうしています。

だからあまり学生に、ああしろこうしろと言わないようにしています。勉強も含めて、教員が楽しんでやっていたら、学生は何か感じてくれるのではないかな、と。

ただ最近は、学生の想像力が乏しいと感じています。何をどうすればどうなるのか、という事を想像できない子が多くなっているような気がします。ちょっと障害があると、すぐに投げ出す。後でどういう結果が待っているか、想像できない。

どうすればいいのか、わかりませんけれども、そこを何とかしないといけないなと、思っています。

佐藤■建築学科は今、就職が良い時代です。社会に求められている人材も、時代と共に変わってきているのでしょうか。そういうニーズに沿って、教育プログラムも変わってきているものなのでしょうか。

船木■建築は、多くの人たちがかわりながら、ひとつのものを作り上げるという過程が大事なので、それはいつの時代でも変わらないと思います。必要なものは、コミュニケーション力だと思います。これは、なかなか成績には現れません。必ずしも成績の良い学生だけが就職が決まるということではないので、面接試験等でその能力を見られているという事だと思います。これは昔も今も変わりません。

中島■学生時代に秋岡芳夫先生と出会ったという事が、ひとつの契機になりました。

私は絵を描いたり工作したりすることは得意でしたが、頭がいいわけでもなく、記憶力もあるほうではないし、勉強は嫌いだったという記憶しかありません。でも人より少しは、ものづくりについては優れていたと思っています。

それが、秋岡先生に出会って爆発したという感じですね。そこから私の苦勞が始まったとも言えますが（笑）。

私は現場で頑張る、体力があったというか、そういう仕事が自分には向いていると思っていました。

それが秋岡さんの「ものづくり」を知ってから、初めて勉強をし始めたというのが本音です。デザイナーは人とコミュニケーションをとったり、説得す

るためには、数字にも強くなければならぬ、漢字も知らなければならぬ、勉強する必要があったのですね。さっき苦勞の始まりと言ったのはその事です。

秋岡先生に引張られ、その後、山下三郎先生が研究室に入り、ここにおられる佐藤明先生とつながり、Gマークの先生方に関わり、本当に私には乾いた雑巾を絞るがごとく智恵を絞られ、先生たちにも付き合ってくださいました。

そういう、いい繋がりを作ってくれたのが、工大なんですね。

だから、勉強は嫌いでしたが、夏休み、冬休みも、大学にはいつも来ていました。できない生徒だったけど、山下先生からは情報をいっぱいいただき、アイリスオーヤマのきっかけも作っていただきました。

そして非常勤講師になれという事で、今に至るわけですね。

大学の先生と言うのは、大学で教えることだけが仕事ではなく、もっと大事な事がその後にあるんじゃないかと思っています。

これまで私は卒業生を、まだ3名しか出していません。その子たちが2、3年後に、私の言った事をどれだけ理解してくれてるか。

教え子のひとは朝4時までバイトをしてたんですね。だから授業中はほとんど寝ているんです。3、4回に1回しかゼミにも出てこない。もう、殴る寸前までいきました。

両親に説明して、どうしたら授業に出られるようになるか、本人にもご両親にも頑張ってもらいました。卒業できた時、ご両親から熱心に面倒見ていただいと感謝されましたが、こっちは卒業させるために無我夢中でやっただけなんですけどね。

アイリスオーヤマには200人を超える部下がいましたが、100人ぐらいのデザイナーがいました。それらを束ねて、社長の大山健太郎のパワーをうまく伝える役目をしてきました。そういう事を学生に、していければいいなと思っています。

菊地良覺先生はたぶん、そういう点を私の魅力だと思って、本学に引張ってくれたのではないかなと思います。

教員の言っている事って、学生は分からないですよ。それがアッパーブローのように、後から効いてくるんです。就職して3年くらいたつと、先生の言っていた事が、分かるようになるんですね。それを信じて言い続けようと思っています。

佐藤■なるほど。工大はかなり面倒見がいい、卒業してからも面倒見る、という評判がありますよね。

榎本■工大には皆さんのように、優秀な先生がたくさんおられます。でも学生は学校で勉強しないことが多いですね。

私も学生の就職のことでは、苦勞していました。

私が常々言っていたことは、大学を卒業して就職すると、終着駅に向けての「特急券」をもらえるよっ



榎本 幹
(名誉教授)

て。学卒としての昇進ラインに乗せてもらえる訳です。途中下車させられる人も居るけれど、何人かは確実に終着駅まで行く。4年生になると自覚ができてきて、何とかなんとか卒業までには間に合い、収まるようになるのが不思議でした。

学生には、就職活動なんかやらなくていいと言っていました。東京に

いるんだったら自分で歩いて会社情報を集めることができるけれど、仙台から行ってもショックを受けて帰ってくるだけ。それだったら、我々教員のもっているノウハウを利用しなさい、と。

例えばデザイン科を卒業したら、3つ、4つの職種しかないと思うんですね。そこにうまくはめてやると、就職できます。そこにはまらないとスピンオフしてしまう。その埋め方が、工大は上手なんじゃないかと思うんですね。

逆に言うと高橋君だって、コンクリートのドクターを取りたいという気があったけれども、目黒君も電気工事会社に行きたいけれども、事務職に来てみると、自分の才能にあった。そういうこともあるわけですから。

大学は成績だけではない、工大の就職率と社会貢献度の高さを、もっと宣伝したいですね。

佐藤■工大は就職率が全国トップクラスです。教員が熱心ですし、さらにOBの方々も就職させるぞという熱意がいっぱいのスタンスで、学生たちを見てくれています。そこが工大の強みでもあるわけですが、では管理職としては、工大をどのようにしていきたいのか、お話ししていただきたいと思います。

高橋■同窓生が足を運んでくれるような、そんな工大にしたいです。

同総会では、数年前から支部が設立していない岩手、福島、秋田で「同窓会の集い」を開催するようになりました。集いで、大学の近況報告をするのですが、キャンパスが大きく変貌したことに驚かれます。特に昭和時代の同窓生皆さんは、ビックリされます。「大学に行ってみたい」と言ってもくれます。でも、今では、年輩の同窓生にとっては、恩師の先生方がご退職されているので、足が遠のいているようです。若い同窓生は、恩師がいらっしゃるのに、足が遠のいているようです。

来てもらうためには、来たいと思えるような、キッカケ、イベント、場所をなんとかしなきゃならないんでしょうね。

まずは、今の工大のアピール、情報発信を増やさなければなりませんね。

佐藤■同窓会館の建設も、資金的には大変ですが、せめて同窓会の部屋とかコーナーとか、何かそうし

た拠点のようなものがあると、同窓会に集まって来やすいかも知れませんね。

目黒■「工大に入学して良かったです！」と言ってもらえるような、卒業後もOBOGが遊びに来るような、2世代・3世代・4世代が入学するような、卒業生に人気のある大学にしたいと思っています。そのためには在学生に対する支援が重要になると思います。教員は、教育、就職活動等で多くの学生と関わりを持っているので、職員も多くの学生と関わりを持ち、充実した支援を行っていきたいと思っています。教務学生課では今年度、「学生サポートオフィスに来る学生を2倍に増やす」という目標を掲げました。来室者を2倍に増やす施策とリピーター学生を増やすために試行錯誤しています。

高橋■目黒さんが言ったように、昭和の時代や平成のある時期までは、旧学生課が学生のたまり場だった時代がありましたね。今はそうになっていませんが。

だから、今からでも関係を築ける可能性はあるんですよね。そのためにも、事務局スタッフ個々が、もっと学生と関わりを持つ何かシステムを考えなければなりませんね。

伊藤■工大に職員として勤務して、広報、キャリアサポート課に配属されて、ずーっと悩んでいる事があって、まだ解決してないことがあるんです。

それは、「工大の特色」はと聞かれたり、求められたりする時、うまく企業や親御さんに話せないです。こういう具体例があるとは言えますが、「工大の良さ」が、伝えられないんですね。

ただ、今までのお話を聞いてきて、工大の良さって、大人が、人間性を全面に学生と勝負しているところかなー、なんて思ったんですが。

他では個人として、そこまで他人、ましてや大人に口出しされる事はないと思うんですね。親にもされないことを、工大ではちょっと学生が質問しただけで、大人がたくさん寄ってくるというか、教員から徹底的にかまわれる。

最初は学生も引いてしまいましたが、馴れてくると、それがとってもいい。そういう人間的なつながりが地域にも波及していったと思うんです。

補助金なんかの話を他の大学と交わしたりする時に、工大は地域の企業に深く密着して、すぐに集まってくれて話が聞けるのは何故なんだろう、と言われます。

他大学では、表面的だったり政治的だったりするところを、工大では個人的な、人間的な力というか、そういう素養が非常に高いからではないかなと、思ってきました。

それがしかし、団体としては、大っぴらに出ていけないというか、そういう人間性ではないし、積極的に表に出ないので、伝わらないということが、ちょっと歯がゆいところがありますね。

そこを、うまく伝えないと企業に分かってもらえない。縁の下の力持ちでもないし、地道にコツコツでもないし、どう言ったらわかってもらえるんで

しょうか。

O Bがこれだけいて、地元これだけ影響力を持っていて、機動力もあるということをどう説明したらいいかなと思っています。同窓会としてのキャンパスの外に機能としてあれば、そうした役割を担っていけるかなと思います。

同窓会の未来をどうするのか

佐藤■さて、それでは同窓会は、どう活動していくのかというテーマに移りたいと思います。

工大でヤギを飼う「ヤギプロジェクト」がマスコミを販わしていますが、「ヤギグッズ」とか、商品開発とか、工大としてO Bとしても応援したいですね。ユニバル（工大内企業）で商品を流通させたり。

中島■私、工大創設50周年記念の同窓会パーティに参加しました。同期はたったひとりだけでした。後で、同期の友人に会った時にその事を話すと、「何だ、それだったら呼んでくれればよかったのに」と言います。

なんか、リーダー的な人をガチっとつかんで、みんなにメールを送るとか、声をかけるとか、情報を流すような人が欲しいですね。

だって、私も東京にいた時は、小人数ですが年に2回くらいは集まって酒を飲んでいるんですよ。仙台でもやっていたんですよ。そこで先輩、後輩とつながっているんですから。

伊藤■卒業時にメールアドレスを教えて、って言うているんですが、なかなか集まっていないのが現状

です。どうしたらいいんですかね。学生が望むなら、工大で取得したアドレスを、そのまま引き継ぐことにでもしたらいいという話もあったんですが。

中島■ざっくりばらんな形で、魅力的な情報を流してくれればいいと思うんですが。

榎本■ネットワークのつなげ方をどうすればいいか、考える必要があると思います。

研究室の飲み会をやれば100人ぐらいすぐ集まる場所、同窓会でやるという、100人全員が来ないなんてことになってしまう。

ネットワークの構築をどうするかという問題ですね。キーマンを拾うということになっているが、うまくいってませんね。

高橋■同総会の今後の活動ということでは、同窓生が出て間もない、ライフデザイン学部3学科の同窓生のネットワークづくりの推進というか、支援をしなければと考えています。例えば、恩師、同窓生、在学生が交流できる集いの支援するとかですかね。そうして、大学に足を運んでもらえるようにしたいですね。

目黒■全教職員がもっと積極的に同窓会に関わって欲しいと思っています。

本学はよく面倒見が良い大学と言われますが、卒業生との関わりについては希薄になっていたように思うので、今後は、卒業生と教職員の交流をもっと増やしていければと思っています。同窓会を通じたOBOGと関わり、「ネットワーク」を大切にしたいと考えています。

伊藤■資金とかまったく考えずに言うんですが、同窓会30周年記念の専門ブースとか、暫定的に2年間だけでも、スペースがあるといいのではないのでしょうか。今後につなげたい事、試したい事ができるのでは、「O B先生を偲ぶ会」(?)とか。

木戸■期限付きのブースも可能ですね。

船木■50周年の時に、いろいろできましたし、同窓会30周年も、ひとつの大きなタイミングですから。

佐藤■一番町ロビーでやっているような展示ですね。方向としては大学施設の一面を、同窓会館として設置しましょうか。

同窓会で作った年表やキャンパス写真などをいつでも学生に見られるよう展示したいですね。

船木■偉い人でなくとも、あまり知られてはいないと思うのですが、工業意匠学科だったら、日本を代表するスポーツカーの内装のデザインを手がけた方もいるわけです。僕ら目線で言えば、社長ばかりが偉いのではなく、日本のものづくりの現場には、たくさん重要な仕事をしている卒業生がたくさんいるんですね。

中島■工業意匠学科の一期生には、株式会社GK インダストリアルデザインでヤマハのデザインをした人とか、建築家でもありますよ。

できたら作品なんかも展示するといいですね。帰りには同窓会グッズでも、タオルやTシャツとか、



ヤギ小屋



もち太郎

あん子

お土産に買って帰ってもらって、運営費はそこから出すというのはどうでしょう。

佐藤■活躍する工大人コーナーは、視察見学コースになりますね。大学にあってもいいくらい。オープンキャンパスの時に、父兄がみれるようにしていると、親にとっては最高ですね。そういうコーナーがパンフレットがあってもいいくらい。伊藤さん、いい案ですね。

中島■それをネットでも配信するようにしたらいいですね。

船木■受験生の確保のために、大学ではできない、2世代、3世代と続くような同窓会でないといけないような声掛けなどがあると思います。また、卒業生が気になるような情報を積極的に発信をしていくということですね。

木戸■今いる学生の中からリーダーを見出して育てる。卒業後10年、20年先には同窓会会長、副会長候補が出るようになるのでは、と思います。

榎本■最近思うんですが、親御さんがプアな場合が多くなって、同窓会にも寄付が集まらないような苦学生が増えていますね。朝までバイトする学生が、結構います。

一番両親がリッチなのは東大だそうで、私立大はプアになっているという不思議な現象になってきているそうです。

中島■体操部にはお金を出すのが、同窓会には、何だか薄まって出たくないという人も多いようです。

目黒■野球部やバスケットボール部とかクラブ単位の方が集まり易いかもしれませんね。

佐藤■同窓会の拠点として、OBたちの活躍している姿が見えるようにしたり、工大の沿革なども、これから入りたい高校生にも見せたいし見て欲しい。なんだか建設的な意見が出てきて、やらなければならない事が見えてきたところで、お開きにしたいと思います。

今日はありがとうございました。

環境エネルギー学科 准教授 佐藤 篤

座談会出席予定でした佐藤篤先生より下記コメントをいただきました。

自己紹介

環境エネルギー学科の佐藤です。私は、大学・大学院共に工大の出身で、通信工学科(現：情報通信工学科)の卒業生です。一時、企業や研究所にも勤務しておりましたが、その後、母校である工大に教員として戻ってまいりました。

工大、さらなる50年に向けて

私が所属する環境エネルギー学科は、2001年に設置(当時：環境情報工学科)された学科で、50年という工大の歴史の中では比較的新しい学科です。それでも、そろそろ初期の卒業生のみなさんが社会では中堅のポストで活躍し始める頃です。今後、こういう若いOBのみなさんに工大のこれからの50年を外から支えていただくことになりますので、我々教員はその後輩として活躍してくれる卒業生を送り出すことでつながりを保ち、また同窓会にはそのサポートをお願いできればと思います。

工大同窓会の役割と自らの行動

一つの具体的な活動でいえば、教員の退職記念パーティーにもう少し深く関わっても良いのではと考えています。現在も、OBへの連絡等で同窓会が関わる場合が多いとは思いますが、例えば、学科等と正式に共催という形にしまい、参加者への連絡は同窓会も連名で送信する、当日の写真などを公開する場を同窓会ホームページ上で提供する、欠席者からのメッセージの集約窓口となるなど、もう少し中心的な立場で関わり、支援することも、今後あり得るだろうと思っています。



【青森県支部】

平成27年度 青森県支部活動報告

向井 務（むかい つとむ）氏

1982年 土木工学科卒業（12回生・今野研究室）
現 在 株式会社タケナカ

同窓会諸兄弟の皆様方においては、お元氣でご活躍の事とお慶び申し上げます。

青森県支部同窓会は隔年の開催となっており、昨年開催年度でしたが、東北工業大学創立50周年記念式典への参加と大学同窓会、後援会様との連絡協議会を行いましたので、同窓会開催を今年度とすることにしております。

青森県内137名への案内状の送付など青森県支部幹事のみなさまと共に講演会、及び同窓会を行う準備を進めてまいりました。



さて、6月13日土曜日17時より、渡邊浩文工学部部長、石井敏建築学科長のお二人を講師に迎えての講演会（渡邊工学部部長は24年に続き2度目）、また18時より青森県支部同窓会の開催を無事に迎える運びとなりました。

40人規模の講演会では地域の高齢者ケア、また住み良い住宅環境等の内容で短い時間で大変分かり易い講演がなされ、活発な意見交換が行われておりました。

講演会終了後は小泉昭一後援会会長、奈良裕青森県支部長、さらに中山正与教授、秋元俊通同窓会会長をまじえて総勢59名での同窓会となりました。今年は例年になく積極的な名刺交換が行われるなど、各学科の垣根も取り払われるほどの盛り上がりで、2時間の予定時間があっという間に過ぎるほど、楽しい同窓会でした。

同窓会会員と関係各位の方々には遠方よりの出席をいただきまして誠にありがとうございました。

また2年後には元気な姿でお会いしたいと思います。



【北海道支部】

北海道支部から

伊勢 辰朗 (いせ たつろう) 氏
1979年 土木工学科卒業(9回生・江成研究室)
現 在 東日本設計株式会社

昨年は同期の佐川君と二人で仙台での同窓会(第30回定時総会)と懇親会に出席させて頂きました。卒業して36年たちますが初めての参加でした。同期との再会はないませんでした、楽しいひと時と仙台の夜を満喫したのも数十年振りのことです。

私は陸前高田市出身ですが、卒業以来札幌に住みつき、仙台での同窓会の機会に際立ち寄った故郷の変わり果てた姿と復興までの道半ばに東北工大生として少しでも関わることが出来ればという思いで一杯でした。

北海道支部は全学科統一の同窓会ということで札幌近郊の同窓生を中心に新年会等楽しい時間を過ごさせて頂いています。飲み語り、会話が弾むほどに忘れていた学生時代がふと蘇る瞬間は、同窓会ならではの出来ごとです。若い人の同窓会への参加が少ないのは、どの支部も同じなのかもしれませんが、北海道は特に卒業生も少なくなっているというのですが、これまで続いた同窓会を元氣なうちは積極的に参加したいと思っています。また今後同窓会への参加を呼びかけ一人でも多くの人に集まってもらえるような北海道支部にしたいと考えています。

学生時代にお世話になった先生方も退任され、知っている先生が少なくなっていますが、北海道科学大学との交流戦時の先生方との会合も楽しみにしております。

来年は、北海道新幹線も函館まで開通し少し仙台が近づきます。これを機会に北海道出身者の入学生が増えることを願うところです。



【新潟県支部】

積み重ねと継続

動山 憲一 (どうやま けんいち) 氏
1976年 土木工学科卒業(6回生・盛合研究室)
現 在 学校法人 みのり学園
認定こども園 長岡みのり幼稚園

平成27年6月6日(土)第19回東北工業大学同窓会新潟県支部総会が新潟市内のホテルで開催されました。

数年前から、恒例としております後援会新潟県支部との同日開催となりました。

総会終了後には両支部合同の懇親会を合わせて実施し、本学の職員、保護者、OBの情報交換の場となりました。

今年で、新潟支部総会も19回を迎え、年々少子化、各種大学、学校の多様化等、県内からの入学者数、本県在住の同窓生数の減少もあり、総会出席者数も年々減少している状況にあり、大勢の方が同窓会に集って頂ける会になるよう苦慮している所であります。

さて、本学同窓会設立30年記念の年と同じくして、我が同窓会支部も歴史を積み重ね来年で設立20年の記念すべき区切りの年を迎える事となりました。

参加者が減少している中、このアニバーサリーの年を切掛けに、設立の精神の戻り、更なる、盛り上りを模索しつつ早々に準備を開始しました。

設立20周年を迎える来年、大勢の皆様からご参加を頂き、盛大な集いとし、新たなネットワークの構築と更なる母校の発展に繋がるよう期待いたし、この誌を借りて、工大同窓会新潟県支部の会員の皆様に御呼びかけをさせていただき、支部活動報告とします。



活躍する工大人

粘り強く！



株式会社アイネス

松本 学 (まつもと まなぶ) 氏

1997年 生まれ

2002年 電子物理工学専攻 修士課程修了 (庄司研究室)

2002年 株式会社アイネス入社

恩師庄司忠良先生のもとを巣立ち、あっという間に13年も経ちました。研究室で夜通し実験したり、図書館に籠って論文を探しまわったり、あの頃の記憶は今でも鮮明に思い出されます。中でも研究室の先輩方と製作した放射線検出器で検出したX線データを、小難しい数式から作ったプログラムで変換し、CT画像として描くことができた瞬間はとても印象的でした。研究者ならば研究対象の放射線検出器に最も魅かれるところと思いますが、私の場合は道具であるはずのITへの興味を深めていくことになりました。

現在は、顧客先に常駐してシステムの安定稼働を維持する仕事、システム運用業務に従事しています。システムは常に変化し続けるため、安定稼働を維持するための活動として、あらゆる観点からのデータを日々収集・分析し、問題点の改善を絶え間なく行っています。

最近の取り組みでは、取引先から送られてくるデータ量を日々集計し、回帰分析で数カ月先のデータ量を予測することで大量データ到来に対して事前に対策を打つといった活動も行っています。当初は取引先のデータ量の合計値に対して分析を行っていたため、非常に精度の悪い予測結果となり全く使い物になりませんでした。システム運用の現場で統計の知識が必要になるとは思っていませんでしたので、書籍を頼りに基礎から始めることになり、問題解決までに随分時間を要しました。その後、回帰分析の前に取引先のデータを分類できていなかったことが大きな原因であることが分かり、取引先を送信パターンごとに分類し、個別に分析することで予測の精度を格段に向上させることが可能となりました。

今後も多くの壁にぶち当たるとは思いますが、庄司先生のように粘り強く前に突き進んで行きたいと考えています。

活躍する工大人

工業系大学の学びは、技術屋としての『創造の原点』であり、『人生の礎』である。



テックスエンジニアリング株式会社 取締役

阿部 義規 (あべ よしのり) 氏

1959年 岩手県釜石市生まれ

1982年 建築学科卒 (13回生・押切研究室)

現在 テックスエンジニアリング株式会社 取締役

私は33年前に建築学科を卒業したが、今はIT業界に身を置いている。総合エンジニアリング会社である太平工業（現在の日鉄住金テックスエンジニアリング株式会社：新日鉄住金グループで社員1万1千人）に入社し、当時、注目していたコンピュータ部門に配属、製鉄プラント向け大型機械の制御コンピューターシステムや、一般企業向け基幹系システムのITコンサルティングとして従事してきた。入社5年後には南アフリカに半年、その後、上海に半年、ジャカルタにもIT技術者として海外勤務がある。

システム企画、開発は建築における『創造』と同様の感覚があり、何も無い状態から膨大な労力を費やして開発するため、非常に達成感のある仕事である。

今、産業界は『インダストリー 4.0』や『Industrial IP Advantage』に牽引され第4次産業革命に向かっている。日本の『もの作り、職人芸』は3Dプリンターの出現で安易にコピーされる状況にある。このような中、世界に対抗する為には優秀なエンジニアの育成が重要であり、工業系大学はこの使命を担っている。

当社にはここ数年、毎年数名の学生が入社して頂いている。皆、優秀で目標を持って活躍しているが、欲を言うなら技術屋としての気概やタフさを持って欲しい。学生時代の思考や経験がその礎になります。

私は学生時代、勉強は二の次で友人や先輩と朝まで議論することが多く、よく覚えていないが『やりたい仕事は何か』、『社会の歯車でいいのか』、『一期一会は大切だ』とか『世界を見たい』と言うような事だったと記憶している。SNSやメールは無く、顔を合わせて話をするしかなかった。この時、『コミュニケーションは五感で行う』ことを体で覚えた。学生時代は、限られた時間だ。学生諸君、その時間を大切にしておいて、大いに議論して下さい。



活躍する工大人

これまでの経験と 設計者としての憧れ



株式会社山下設計 東京本社 技術設計部門

千葉 満輝（ちば みつてる）氏

1989年 岩手県生まれ

2012年 建築学科卒業（43回生・渡邊研究室）

2014年 大学院建築学専攻 博士前期課程修了（渡邊研究室）

現在 株式会社山下設計 東京本社技術設計部門 機械設備設計部

入社二年目にして、ここに文章を綴る事となりました。人に経験を語る程の学を修めた訳でもなく、教えを解く身分でもありませんが、ここに思う事を書き連ねようと思います。

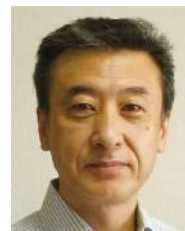
博士前期課程を修了し、入社後のこの一年間は、なかなか早いものでした。機械設備設計部に所属してからというもの、病院や官公庁、スポーツ施設、文化施設等いろいろな用途建築物の仕事に関わって参りました。とは言えまだまだ仕事内容は、直接設計に携わる仕事ではなく、積算や環境シミュレーション、その他の打ち合わせ資料の作成等がメインでした。膨大な仕事をいかに効率よく正確に処理するか、仕事ではこれまでに幾度となく求められてきました。それと共に学生では経験しない責任と緊張の連続にうな垂れる事もありました。只これまでに、やってきた事の一つ一つが自身の経験値となり、少しずつではありますが進化しているという実感がります。

学部時代に勉強していたことが、社会で使うとは思わずに学んでいたせいか、今更ながらにその頃の教科書を手に取る事があります。実務では、入社して数ヶ月後に上司に言われた「室内の空調機器がある時故障した場合を想定して、時刻別に室内気温の変化をシミュレーションしてくれ！外壁の素材構成や壁厚別にパターンも出してもらいたい。」という咄嗟の課題に対して教科書を握りました。ほんやりと大学で触れた内容の応用が仕事で求められた、なかなかアカデミックな課題でした。どうやら弊社では、そんなアカデミックな知識を新入社員に求めつつ、社員教育を兼ねるのが常のようです。歴代の先輩方も同じように上司から課題のようなものを突き付けられては、学んでいたそうです。こういった経験を得られる職場は、今後も私自身が成長できる場であると感じています。

職場の上司や先輩の仕事姿は、やはり憧れる部分が多々あります。作業スピードや正確性、多岐にわたる知識量、プログラミングやドローイング技術。各々がそれぞれの研究分野を持ち、スペシャリストである姿に自身も「こんな設計者になりたい。」という野望や、「一生かかってもこんな設計者にはなれないのでは？」と感服することもあり、なるべき将来の設計者像を現在模索しています。これからも生涯学徒であり続け、活躍できる設計者を目指したいと考えています。

活躍する工大人

コンサルティング・ エンジニアとして



パシフィックコンサルタンツ株式会社

齋藤 武範（さいとう たけのり）氏

1959年 北海道釧路市生まれ

1982年 土木工学科卒業（12回生・神山研究室）

現在 パシフィックコンサルタンツ株式会社 プロジェクト事業本部
航空部長（兼）MDD事業部長 技術士（建設部門・総合技術監理部門）

現在、パシフィックコンサルタンツ株式会社東京本社で、航空部及びMDD事業部の責任者として国内外の空港や防衛省関連の基盤整備に携わっています。

建設コンサルタントは一般的になじみの薄い職種ですが、都市や地域、道路、河川、鉄道、空港等、様々な建設プロジェクトの企画立案から設計、施工管理まで、幅広い領域で技術サービスを提供し、人々の暮らしや活動を支えています。

顧客や利用者のニーズに対応し、自らのアイデアや知識・技術がダイレクトに街づくりに反映され、関わったプロジェクトが形になって現われてきます。試行錯誤を繰り返し、完成を迎えた際には大きな充実感と達成感を感じることができます。

印象深い業務としては、20年程前に携わった三陸自動車道があげられます。宮城県から岩手県沿岸部を通過する路線で、この地域は1960年チリ地震津波を経験していたため、計画当初から津波の影響回避を強く意識したルート選定を行っていました。2011年東日本大震災時には、開通していた区間は難を逃れ、また、その後の復興に貢献できたことは、一技術者として社会的な影響力や責任の大きさを改めて感じる場所でもありました。

今後も、めまぐるしい社会の変化及びニーズの多様化に対して、最適なソリューションを提供するとともに、より一層基盤整備を通して社会貢献を果たしたいと考えています。

最後に、工大関係者の皆様の健康と益々の御活躍を祈念し、結びの言葉とさせていただきます。

活躍する工大人

何事も経験



株式会社シグマトロン

三宅 良宜 (みやけ よしき) 氏

1988年生まれ
2012年 環境情報工学専攻 博士前期課程 修了 (佐藤篤研究室)
2015年 環境情報工学専攻 博士後期課程 単位取得満期退学
株式会社シグマトロン 入社 現在に至る

大先輩方のご活躍が数多く掲載されている中で恐縮ですが、一筆寄稿させていただきます。

環境問題に関心があった私が環境情報工学科に入学したのは2006年のことです。当初はどのような分野に関わるか漠然としていましたが、半年ごとの研究室配属を経て、レーザーによる光センシングに興味を抱き、卒業研修および大学院での配属先として佐藤篤研究室を選びました。研究室に入るまでレーザーのレの字も知らない私でしたが、佐藤先生をはじめとする方々のご指導のもと多くの研究や成果発表を経験することができました。また、博士後期課程においては2年間外部の研究機関での研究を行い、非常に刺激的な日々を送らせていただきました。

その一方で、研究を通して様々な機器に触れるうちに実際にものを動かす分野に対して興味が湧き、2015年4月に組込みソフトウェアを手掛けるシグマトロン株式会社に入社致しました。

工大には実に9年間在籍していたため、同期のほとんどは3歳から5歳ほど年下になります。ずいぶん遠回りをしたとも思いましたが、最近少しずつ実感しているのが経験は無駄にならないということです。研究を進めるにあたっては様々な問題が発生しますが、それを解決するためには綿密な調査を行い、人と相談や議論を交わし、そして行動するというプロセスが必要になります。そのような問題解決能力は実際の業務においても求められるものであり、研究の知識をそのまま用いることはできなくとも、経験は十分に活かしてくるものだと思います。

今後も業務を通して新たな経験を身に付け、先輩方のように工大人として活躍できるよう努力して参ります。

最後になりますが、工大の益々の発展と、工大関係者の皆様のご活躍をお祈りいたします。

活躍する工大人

学生時代の思い出と、これから



フリーランスグラフィックデザイナー

上代 暁 (じょうだい あきら) 氏

1990年生まれ
2012年 クリエイティブデザイン学科卒 (2回生・篠原研究室)
現在 フリーランスグラフィックデザイナー

平成24年度(2012年度)にクリエイティブデザイン学科(篠原研究室)を卒業した上代 暁です。昨年4月からグラフィックデザイナーとして東京のデザイン事務所に就職し、今年の6月よりフリーランスのグラフィックデザイナーとして活動をしています。デザイン事務所に勤めていた時には、学生時代に嫌という程叩き込まれた基礎演習が、実はとても重要なもので、もっとしっかり学んでおけばよかったとよく思っていました。

僕は在学中の学生生活が今の自分のデザインに生きているとよく思います。

在学中は友人たちとデザインや写真、アートやファッションなどの自分が好きなものについて、よく語り合っていました。好きなことには一所懸命で個性豊かな友人たちが多く、とても刺激的な学生時代でした。学生時代に友人たちと切磋琢磨したからこそ、今の自分のデザインに対する姿勢があると思っています。在学中に受けたある講義では、講師の先生が「友人をつくりたくさん遊べ!」とよく言っていました。当時は、就職したら遊べなくなるからそう言っているのだと思っていましたが、友人を多くつくり、遊ぶうえで自分の知らないことを知ることがデザイナーとしての視野を広げるひとつの方法だったのだと今は思います。

人と高め合う学生時代を過ごしてきたので、就職してからは先輩方よりも良いものをつくることを目標に仕事をしていました。デザイン事務所で働けることが何よりも嬉しく、楽しかったので、自分の仕事が終われば、先輩方の仕事を手伝うようにしていました。その姿勢が認められて、新人では任せてもらえないような仕事をたくさんいただき、とても勉強になりました。学生時代にデザイン誌に載っているような仕事がしたい!と思っていたので、様々な仕事を経験できて仕事に対する自信ができました。

現在は会社を辞めフリーランスのグラフィックデザイナーとして活動していますが、今後は自分の経験値をさらに上げるために、再就職も視野に入れつつ、制作活動を続けていきたいと思っています。

活躍する工大人

大学生活で 培ったもの



株式会社北洲

岡崎 真由（おかざき まゆ）氏

1991年 山形県西村山生まれ

2013年 安全安心生活デザイン学科卒（伊藤研究室）

現在 株式会社北洲 ストック循環事業部

私は現在、株式会社北洲のリフォーム部門に所属しており、営業担当として日々業務に励んでいます。お客様のより良い住まい作りにご協力させていただくには建築の知識に加え、住宅設備商品、時には家電や条例等の様々な知識を持つ必要があります。その為、就職して約1年半経った今でも毎日新たな課題と向き合う毎日です。

また、営業という職務は、お客様と会社との間に立つ仕事でも有る為、建築や商品の知識だけでは成り立たない事も日々強く感えています。それは他人が何を何故考えているのか理解しようとする姿勢にあると私は考えています。

私は在学中、研究室での活動に加え、教職課目の履修や、インターンシップやボランティア活動等、様々な体験を通して多くの方々と関わりを持つ事ができました。元々、福祉関係に興味の有った私は関係する事柄には積極的に加していましたが、他に關してはあまり感心を示していませんでした。しかし、「自分のやりたい事とは違うけど…」と思っていたものが、多くの人や資料に触れていく内に不思議と繋がりを持っていきました。

関心の無い筈のそれぞれの体験が、引き出しとして増えていき、より次に起る事象を深く捉える事ができるようになりました。このような経験から私は多くの人の考えに触れる事が自分の感性も豊かにしてくれるものなのだと気付く事ができました。こうした気付きは、大学生活という貴重な経験を沢山積める所に居たからこそ得たものです。

現在、社会人としてはまだまだ未熟ではありますが、大学生活で培ったものを生かしたいです。

在学生の皆様も、未来の自分の引き出しを多く持てるよう、様々な事にチャレンジして欲しいと思います。

活躍する工大人

経営コミュニケーション 学科と現在の仕事



株式会社仙台三越（営業統括部 婦人雑貨担当キャリア NYRW）

工藤 翼（くどう つばさ）氏

1991年 8月31日生

2014年 経営コミュニケーション学科卒業（3回生・佐藤飛鳥研究室）

私は現在、仙台三越の婦人雑貨部門で婦人服の接客販売の仕事をしています。私の一番の仕事内容は、足を運んでくださったお客さまに、接客を通して商品・コーディネート提案をすることです。入社してまだ1年数ヶ月しか経っていませんが、様々な仕事内容や経験をさせて頂いております。地域行事のすずめ踊りに会社の一員として参加し入賞したこと、震災復興活動の植樹祭に参加したこと、全国の三越伊勢丹の同期と共に研修をし、接客等の勉強をしたこと。お客さまを第一としている会社ですが、従業員、お取引先の方、地域の方々といった、様々な人とのつながりをすごく大事にしている会社だなと感じています。

就職してはや一年以上経ち、今思うと大学生活は充実し、とても貴重な経験を数多く出来た4年間でした。友人と一から研究会を立ち上げ、イベントの企画・実行・運営の全てを自分たちで行ったり、研究室の活動ではいくつかの企業と連携しプロジェクトをすすめたりと、今思えば様々なことに挑戦していました。

また、経営コミュニケーション学科で学んだ経営学とコミュニケーション学の知識や経験は現在の仕事で活かすことが出来ていると感じています。経営学においては、「経営組織論」「マーケティング論」で学んだ知識やSWOT分析などの分析手法を自分のお買場（三越伊勢丹グループでは売り場のことをお買場と呼ぶ）で実践していること。コミュニケーション学においては、対人コミュニケーション、言語・非言語コミュニケーションの知識やプレゼンテーションの講義で得た情報発信力は、最も重要な業務内容である「接客」の基礎となり、この基礎を固めることは、お客さまからの信頼を得ることにつながるということ。このように経営コミュニケーション学科では今の仕事で発揮し生かすことができる能力を身につけることが出来たと思います。現在の最も重要な仕事である「接客」を通してさらなるスキルアップを図り、お客さまから信頼を得ることができる人間になることが今の私の目標です。

最後になりますが、『工大人』の執筆という機会を頂戴したことに感謝し、また東北工業大学の益々の発展と、工大関係者、同窓会の皆様のご活躍をご祈念申し上げます。ありがとうございました。

「第4回福島県東北工業大学同窓生の集い」のご案内

日 時：平成27年11月7日（土）18:30～

会 場：いわきワシントンホテル椿山荘

福島県いわき市平字一丁目1番地 0246-35-3000

会 費：3,000円

申込方法：参加希望の方は、会場設定の都合上、平成27年10月16日（金）まで、氏名・学科・卒業年次をFAXまたはメールにて、ご連絡ください。

FAX 022-305-3337 e-mail: dousoukai@tohtech.ac.jp

「東北工業大学同窓会設立30周年記念講演」

ならびに「第1回関東圏東北工業大学同窓生の集い」のご案内

【東北工業大学同窓会設立 30 周年記念講演】

テ ー マ：「垂直記録とビッグデータ時代」

講 師：学校法人東北工業大学 理事長 岩崎俊一氏

日 時：平成27年11月28日（土）16:30～

会 場：東海大学校友会館 阿蘇の間

東京都千代田区霞ヶ関 3-2-5 霞ヶ関ビル 35F 03-3581-0121

会 費：入場無料

【第1回関東圏東北工業大学同窓生の集い】

日 時：平成27年11月28日（土）18:00～

会 場：東海大学校友会館 東海の間

東京都千代田区霞ヶ関 3-2-5 霞ヶ関ビル 35F 03-3581-0121

会 費：3,000円

申込方法：参加希望の方は、会場設定の都合上、平成27年11月6日（金）まで、氏名・学科・卒業年次をFAXまたはメールにて、ご連絡ください。

FAX 022-305-3337 e-mail: dousoukai@tohtech.ac.jp



岩崎俊一先生のプロフィール



東北工業大学 理事長・名誉学長
岩崎 俊一 (いわさき しゅんいち)
 大正15年8月3日生(福島県郡山市)
 東北工業大学理事長・名誉学長
 日本学士院会員
 文化功労者
 東北大学名誉教授

- 1949年 東北大学工学部通信工学科卒
- 1959年 工学博士(東北大学)の学位授与
- 1964年 東北大学電気通信研究所教授
- 1987年 日本学士院賞(高密度磁気記録の研究により学術の進歩に著しい貢献)、文化功労賞顕彰(コンピュータなどに使われる磁気テープ、ディスクの磁気記録方式を高密度化する研究で優れた業績)
- 1988年 科学技術庁長官賞(科学技術功労者)(垂直磁気記録方式の研究開発)
- 1989年 Cledo Brunetti Award(IEEE Fields Award)
- 1994年 宮中「講書始の儀」における進講者をつとめる(表題:「磁気と情報」)
- 2002年 2002 Achievement Award (Magnetics Society IEEE)
- 2003年 瑞宝重光章
- 2010年 日本国際賞「工業生産・生産技術」分野(垂直磁気記録方式の開発による高密度磁気記録技術への貢献)、秋田県知事より産業技術特別功労表彰
- 2013年 文化勲章
- 2014年 ベンジャミン・フランクリン・メダル

「地（知）の拠点：大学COC事業」に採択されました

東北工業大学は、平成 26 年度文部科学省より「地（知）の拠点：大学COC事業」の採択を受けました。「オールせんだいライフデザイン実践教育共創事業」をテーマに、教育・研究・地域貢献活動を通じて、地域の産業・文化の発展に貢献できる人材の育成をするものです。

仙台市とは本年 12 月 6 日開業となる地下鉄東西線の沿線まちづくりなどの課題解決に向けて平成 25 年 5 月に連携協定を締結しました。

大学COC事業を通じて地域の協力のもと、まちづくりの課題解決のためのプロジェクト活動や実践教育事業等を推進しております。



地下鉄東西線 八木山動物公園駅構内

2016 年、建築学科は創設 50 周年を迎えます

東北工業大学建築学科卒業の皆様へ



来年(2016年)の学科創設50周年を記念して、学科と卒業生、卒業生同士のツナガリ、絆を深めるためのプラットフォームの構築をいたします。今後の学科からの情報発信のため、メールアドレスの登録をお願いしたいと思います。「東北工業大学建築学科」のホームページにアクセスしていただければ、その中に『卒業生の方へ』のコーナーがありますので、そこから登録をお願いします。



<http://arch-tohtech.net/>

皆さまの周りの建築学科の卒業生、同級生にもご案内いただき、1人でも多くの方にご登録いただけるよう、ご協力をお願いします。

また、2016年には学科創設50周年を記念しての「卒業生交流の集い」の開催も検討しています。50年の歴史の中で、建築学科を卒業した卒業生は7,500名超。堅苦しくない、各世代が集まる同窓会のような場になりたいと企画をスタートさせました。ぜひ、懐かしい仲間、先生に会いに来てください。

詳細については、あらためてホームページ、登録いただいたメール等でご案内差し上げます（そのためにも是非メールを登録ください）。

工大建築学科卒業生の集い（仮称）

2016年10月8日（土）開催決定

詳細につきましてはあらためてご案内します

50周年記念事業実行委員会

委員長：野津弘（昭和51年卒）

副委員長：市場芳男（昭和51年卒）・石井敏（建築学科長）

委員：西條芳郎（昭和46年卒）・氏家清一（昭和52年卒）・渡邊英明（昭和51年卒）・沼畑周正（昭和54年卒）・佐藤究（平成4年卒）・石川尋也（平成5年卒）・大豆生田敏男（平成7年卒）・藤田智己（平成15年卒）ほか建築学科教職員、そのほか随時委員を追加しながら企画を進めます。

The 30th Anniversary

東北工業大学同窓会 設立 30 周年記念号